

基本計画書

基 本 計 画									
事 項		記 入 欄						備 考	
計 画 の 区 分		専門職大学の設置							
フ リ ガ ナ 設 置 者		ガッコウホウジンアイノダイガク 学校法人藍野大学							
フ リ ガ ナ 大 学 の 名 称		ビワコリハビリテーションセンモンシヨクダイガク びわこリハビリテーション専門職大学 (Biwako Professional University of Rehabilitation)							
大 学 本 部 の 位 置		滋賀県東近江市北坂町967番地							
大 学 の 目 的		教育基本法及び学校教育法の定めるところに従うとともに教育理念に則り、リハビリテーションに関する実践的かつ応用的な能力を展開するための教育研究により、高い倫理観と豊かな人間性、実践の理論に裏付けられた専門的な知識と技術を身に付けた有能な人材を養成することで、地域共生社会の実現に貢献することを目的とする。							
新 設 学 部 等 の 目 的		①高い倫理観と豊かな人間性、理論に裏付けられた専門的な知識と技術を身に付け、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、適切なリハビリテーションを提供できる人材を育成する。 ②地域共生社会の実現に向け、理学療法士・作業療法士として保健・福祉・スポーツ・就労等の分野において、多職種と連携・協力のもと、地域住民及び地域が抱える課題を発見し、解決することのできる創造性豊かな人材を育成する。							
新 設 学 部 等 の 概 要	新 設 学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又は 称号	開設時期及び 開設年次	所 在 地	
	リハビリテーション学部 (Faculty of Rehabilitation) 理学療法学科 (Department of Physical Therapy)	年	人	年次 人	人		年 月 第 年次	滋賀県東近江市北坂町 967	
		4	80	—	320	理学療法学士 (専門職) (Bachelor of Physical Therapy)	令和2年4月 第1年次		
	作業療法学科 (Department of Occupational Therapy)	4	40	—	160	作業療法学士 (専門職) (Bachelor of Occupational Therapy)	令和2年4月 第1年次		
	計		120	—	480				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		藍野大学医療保健学部看護学科(定員増) (25)(令和2年4月)(平成31年3月認可申請) 理学療法学科(定員増) (20)(令和2年4月)(平成31年3月認可申請) 滋賀医療技術専門学校 平成31年度生募集停止							
教育 課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	リハビリテーション学部 理学療法学科	87 科目	5 科目	31 科目	123 科目	131 単位			
	リハビリテーション学部 作業療法学科	73 科目	0 科目	38 科目	111 科目	130 単位			

教 員 組 織 の 概 要	学 部 等 の 名 称		専任教員等						兼 教 員 等
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新 設 分	リハビリテーション学部 理学療法学科 作業療法学科	人	人	人	人	人	人	人
			7 (5)	6 (4)	10 (6)	1 (1)	24 (16)	1 (1)	50 (15)
			7 (6)	2 (2)	3 (3)	4 (3)	16 (14)	4 (0)	42 (15)
	計	14 (11)	8 (6)	13 (9)	5 (4)	40 (30)	5 (1)	－ (－)	
	既 設 分	該当なし	人	人	人	人	人	人	人
			－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)
			－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)
	計	－	－	－	－	－	－	－	
合 計	14 (11)	8 (6)	13 (9)	5 (4)	40 (30)	5 (1)	－ (－)		
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事務職員		人		人		人		
	技 術 職 員		－ (－)		－ (－)		－ (－)		
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)		－ (－)		1 (1)		
	そ の 他 の 職 員		－ (－)		－ (－)		－ (－)		
	計		20 (9)		－ (－)		20 (9)		
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		その他は駐車場
	校 舎 敷 地	0.00 m ²	13,632.29 m ²		0.00 m ²		13,632.29 m ²		
	運 動 場 用 地	0.00 m ²	0.00 m ²		0.00 m ²		0.00 m ²		
	小 計	0.00 m ²	13,632.29 m ²		0.00 m ²		13,632.29 m ²		
	そ の 他	0.00 m ²	4,007.00 m ²		0.00 m ²		4,007.00 m ²		
	合 計	0.00 m ²	17,639.29 m ²		0.00 m ²		17,639.29 m ²		
校 舎		専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		共用する学校は滋 賀医療技術専門学 校（令和2年度閉 校予定）で基準面 積は 令和元年度 860.00m ² 令和2年 度500.00m ² 記載の校舎延床面 積は実測
		6,102.41 m ² (3,224.59 m ²)	0.00 m ² (2,877.82 m ²)		0.00 m ² (0.00 m ²)		6,102.41 m ² (6,102.41 m ²)		
教室等	講義室	演習室	実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		大学全体
	10 室	1 室	12 室		1 室 (補助職員 0人)		0 室 (補助職員 0人)		
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称				室 数			
		リハビリテーション学部				30 室			
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	電子ジャーナルは藍野大 学中央図書館におい て、メディカルオン ライン利用契約を結 んでおり、本学も利 用できる
	リハビリテーション学部	12,884 [669] (11,184 [649])	48 [7] (44 [3])		3 [0] (3 [0])	206 (206)	2,195 (2,098)	46 (28)	
	計	12,884 [669] (11,184 [649])	48 [7] (44 [3])		3 [0] (3 [0])	206 (206)	2,195 (2,098)	46 (28)	
図書館		面積		閲覧座席数			収 納 可 能 冊 数		体育館は近隣の総合 スポーツ施設おくの の運動公園(体育館 含む)を賃借する。 (現地まで、本学の バスで送迎)
		311.66 m ²		82			25,000		
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		0.00 m ²		該当なし					

経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次			
		教員 1 人当り研究費等		253千円	253千円	253千円	253千円					
		共 同 研 究 費 等		—	—	—	—					
		図 書 購 入 費		1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円					
		設 備 購 入 費		1,500千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円					
	学生 1 人当り 納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次					
		1,600千円	1,200千円	1,200千円	1,200千円	— 千円	— 千円					
学生納付金以外の維持方法の概要				寄付金、補助金等								
既設大学等の状況	大 学 の 名 称	藍野大学									令和2年度 藍野大学 医療保健学部 看護学科 入学定員90→115 理学療法学科 入学定員80→100 (平成31年3月認可申請)	
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地			
	大学院 看護学研究科 看護学専攻	年	人	年次人	人		倍		大阪府茨木市東太田4 丁目5番4号			
	医療保健学部 看護学科	2	6	—	12	修士（看護学）	1.00	平成27年度				
		4	90	3年次	330	学士（看護学）	1.19	平成16年度				
		2		2	7			平成16年度				
	理学療法学科	4	80	—	320	学士（理学療法学）	1.17	平成16年度				
	作業療法学科	4	40	—	160	学士（作業療法学）	1.12	平成16年度				
	臨床工学科	4	40	—	160	学士（臨床工学）	1.05	平成22年度				
	計	4	250	—	977		1.14					
	大 学 の 名 称	藍野大学短期大学部										
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地			
		年	人	年次人	人		倍		大阪府茨木市太田 3丁目9番25号			
	第一看護学科	2	100	—	200	短期大学士（看護学）	1.14	昭和60年度				
	第二看護学科	3	80	—	240	短期大学士（看護学）	1.14	平成19年度	大阪府富田林市 青葉丘11番1号			
	大 学 の 名 称	滋賀医療技術専門学校									滋賀医療技術専門 学校 平成31年度 募集停止	
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地			
		年	人	年次人	人		倍		滋賀県東近江市北坂 町 967番地			
	理学療法学科	3	80	—	240	専門士	0.71	平成8年度				
作業療法学科	3	40	—	120	専門士	0.74	平成8年度	滋賀県東近江市北坂 町 967番地				
附属施設の概要												

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(リハビリテーション学部 理学療法学科)																	
科目 区分		授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
① 基礎科目	初年次 教科目	学びの基盤	1前	1			○				1					兼1	
		コミュニケーション論	1前	1			○										
		音楽	1後		1		○									兼1	
		キャリア発達論	2後	1			○									兼1	
		教育学	1前	1			○									兼1	
		倫理学入門	1前	1			○									兼1	
		哲学入門	1前		1		○					1					
		心理学	1後	1			○									兼1	
		経営学入門	2前		1		○									兼1	
		社会学	1前		1		○									兼1	
		日本の伝統文化	1前		1		○									兼1	
		日本の近代史	1前		1		○									兼1	
		体育	1後		1				○				1				
	自然科学系 科目	生物学	1前	1			○				1						
		物理学Ⅰ	1前	1			○									兼1	
		物理学Ⅱ	1後		1		○									兼1	
		統計学	2後	1			○									兼1	
		数学	1前		1		○									兼1	
	語学教育 科目	英語Ⅰ	1前	1			○									兼1	
		英語Ⅱ	1後		1		○									兼1	
		韓国語	2後		1		○									兼1	
		中国語	2後		1		○									兼1	
			小計（22科目）	—	10	12	0	—			1	1	1	1	0	兼13	
② 職業専門科目	理学療法 理論科目群	解剖学Ⅰ	1前	2			○				1					兼1 兼1	オムニバス ※講義 オムニバス ※講義 ※実習

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
職業実践 科目群	基礎理学療法学Ⅰ	1前	1			○					1			兼1 ※講義 ※演習 ※講義 ※講義 ※演習 オムニバス ※講義 オムニバス ※講義 オムニバス ※演習 ※講義 ※演習 オムニバス ※演習 ※講義 ※講義 ※演習 兼1 オムニバス ※講義 兼1 オムニバス ※講義 オムニバス ※講義 兼1 オムニバス ※講義 兼1 ※講義 ※講義 オムニバス ※講義 オムニバス ※講義 オムニバス ※講義 オムニバス ※演習 ※ 一部共同 ※ 講義 共同 共同 共同 共同 共同 共同
	基礎理学療法学Ⅱ	1前	1			○					1			
	基礎理学療法学実習Ⅰ	1後	1					○			1			
	基礎理学療法研究法	3前	1			○					1			
	基礎理学療法学実習Ⅱ	1後	1					○	1					
	臨床技能論実習	3前	1					○			1			
	理学療法管理学	4後	1			○			1					
	保健医療福祉関連制度論	4後	1			○								
	理学療法評価学	1後	1			○					1			
	理学療法評価学実習	2前	2					○	2					
	理学療法評価学演習	3前	1				○		1		2			
	画像評価学	2後	1			○			2					
	運動療法学	2前	1			○			1					
	運動療法学実習	2後	1					○			1			
	徒手理学療法学	3前	1			○			1					
	徒手理学療法学実習	3後	1					○	1					
	物理療法学	2前	1			○								
	日常生活活動学	2前	1			○					1			
	義肢装具学Ⅰ	2前	1			○								
	義肢装具学Ⅱ	2後	1			○								
	神経障害系理学療法学実習Ⅰ	3前	1					○						
	神経障害系理学療法学実習Ⅱ	3前	1					○			1			
	運動器障害系理学療法学実習Ⅰ	2後	1					○			1			
	運動器障害系理学療法学実習Ⅱ	3前	1					○	2					
	内部障害系理学療法学実習Ⅰ	3前	1					○	1					
	内部障害系理学療法学実習Ⅱ	3前	1					○	1		1			
	小児期理学療法学演習	2後	1				○				1			
	老年期理学療法学演習	2後	1				○							
	スポーツ障害系理学療法学実習	2後	1					○	1					
	神経筋骨格障害応用論実習	4後		2				○	1	2	1			
	内部障害応用論実習	4後		2				○	1		1			
	スポーツ障害応用論実習	4後		2				○		2	2			
	地域理学療法学	2後	1			○					2			
	地域理学療法学実習	3前	1					○			3			
	理学療法見学実習Ⅰ	1前	1					臨	1	4	9			
	理学療法見学実習Ⅱ	1後	1					臨	1	4	9			
	理学療法見学実習Ⅲ	2前	1					臨	1	4	9			
	理学療法評価実習	3前	4					臨	1	5	10			
	理学療法総合臨床実習Ⅰ	3後	6					臨	1	5	10			
	理学療法総合臨床実習Ⅱ	4前	6					臨	1	5	10			
	理学療法地域実習	4前	1					臨	1	2	10			
	小計（68科目）	—	83	6	0	—			7	6	10	1		兼14

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
③ 展 開 科 目	マーケティング論	3後	1			○								兼1	
	施設起業運営論	3後	1			○								兼1	
	ボランティア論	1後	1			○								兼1	
	生涯スポーツ論	1前	1			○						1			
	労働衛生論	1後	1			○								兼1	
	子育て支援論	2前	1			○								兼1	
	災害支援論	2前	1			○								兼1	※演習
	教育支援論	2前	1			○								兼2	
	メンタルヘルスマネジメント論	3後		1		○								兼1	
	地域共生論	3前	2			○								兼3	オムニバス ※実習
	障がい者スポーツ論	3後	1			○				1					
	障がい者スポーツ論実習	4前	1					○		1	1				オムニバス ※講義
	スポーツリズムトレーニング論	3後		1		○								兼3	
	体力測定論	3後		1		○				1	2				オムニバス ※演習
	健康増進実践演習	3後		1			○			1	2				オムニバス ※講義
	健康増進実践実習	3後		1				○		1	2				オムニバス ※講義
	パフォーマンス向上論	3後		1		○				1					※演習
	フィットネス論	3後		2		○				2		1			オムニバス ※演習
	ランニングトレーニング論	3後		2		○				1					※演習
	ゴルフトレーニング論	3後		2		○				2				兼1	オムニバス ※演習
	ビジョントレーニング論	3後		2		○								兼1	※演習
	遊びとレクリエーション	3後		1		○				1					
	生きがい創造	3後		2		○								兼1	※演習
	伝承遊び	3後		2		○								兼1	※演習
	シューフィッティング論	3後		1		○								兼1	※演習
	福祉工学地域活用論	3後		1		○								兼1	
	ロボット工学地域活用論基礎	3後		1		○								兼2	オムニバス
	ロボット工学地域活用論応用	3後		2		○				1				兼2	オムニバス 共同 ※演習
	身体障がい者就労環境論	3後		2		○								兼1	
	組織運営論	3後		2		○								兼2	
	小計（30科目）	—	12	28	0	—			0	6	2	0	0	兼25	
④ 総 合 科 目	協働連携論総合実習	4後	2					○		1	1			兼2	共同
	理学療法総合実習	4後	1					○	2	5	9				共同
	リハビリテーション総合演習	3後	1				○		1	4	8				共同 ※講義
	小計（3科目）	—	4	0	0	—			3	5	9	0	0	兼2	
合計（123科目）		—	109	46	0	—			8	6	10	1	0	兼52	

学位又は称号	理学療法学士 (専門職)	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（リハビリテーション関係）	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
【卒業要件】 次により、必修科目109単位、選択科目22単位以上を修得すること。 1. 基礎科目20単位以上 (1) 必修科目10単位 (2) 選択科目10単位以上 ・人間と社会系科目の内から6単位以上、自然科学系科目と語学教育科目の内から4単位以上を選び、合計10単位以上を修得すること。 2. 職業専門科目87単位以上 (1) 必修科目83単位 (2) 選択科目4単位 3. 展開科目20単位以上 (1) 必修科目12単位 (2) 選択科目8単位以上 4. 総合科目4単位 (1) 必修科目4単位			1学年の学期区分	2学期
			1学期の授業期間	15週
			1時限の授業時間	90分

1

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
職業 実践 科目 群	作業療法学総論	1前	1			○				1				兼1 ※講義 ※講義 ※演習 ※講義 ※講義 ※講義 ※講義 ※講義 ※講義 ※講義 ※講義 ※講義 ※講義 ※講義 ※講義 ※講義 ※講義 ※講義 ※演習 ※講義 ※講義 ※講義 共同 共同 共同 共同 共同 共同
	基礎作業学	1前	1			○						1		
	基礎作業学実習Ⅰ	1前	1					○			1			
	基礎作業学実習Ⅱ	1後	1					○				1		
	作業療法研究法	3前	1			○			1					
	作業療法管理・制度論	1後	1			○				1				
	作業療法と倫理	1後	1			○				1				
	作業療法評価学総論	1後	1			○					1			
	身体障害作業療法評価学実習Ⅰ	2前	1					○			1			
	身体障害作業療法評価学実習Ⅱ	2前	1					○			1			
	精神障害作業療法評価学実習	2前	1					○				1		
	発達障害作業療法評価学実習	2前	1					○		1				
	身体障害作業療法基礎技術論	2後	1			○					1			
	運動器疾患作業療法学実習	2後	1					○			1			
	中枢神経疾患作業療法学実習	2後	1					○				1		
	高次脳機能障害作業療法学実習	3前	1					○				1		
	精神障害作業療法学	2後	1			○						1		
	精神障害作業療法学実習	3前	1					○				1		
	発達障害作業療法学実習Ⅰ	2後	1					○	1					
	発達障害作業療法学実習Ⅱ	3前	1					○	1					
	老年期障害作業療法学	2後	1			○								
	老年期障害作業療法学実習	3前	1					○			1			
	日常生活活動論実習	2前	1					○				1		
	社会生活行為論実習	2前	1					○				1		
	作業分析活用論	2後	1			○			1					
	作業分析活用論実習	2後	1					○				1		
	家族援助論	3前	1			○			1					
	住環境支援論	3前	1			○								
	作業療法義肢装具実習	2後	1					○			1			
	生活行為向上マネジメント論実習	3前	1					○				1		
	地域生活作業療法学総論	2前	1			○			1					
	地域生活作業療法学実習Ⅰ	2後	1					○						
	地域生活作業療法学実習Ⅱ	2後	1					○				1		
	地域生活作業療法学実習Ⅲ	3前	1					○						
	作業療法見学実習Ⅰ	1後	1					臨			3	4		
	作業療法見学実習Ⅱ	2前	1					臨			3	4		
	作業療法評価実習	3前	5					臨	1	1	3	4		
	作業療法総合臨床実習Ⅰ	3後	7					臨	1	1	3	4		
	作業療法総合臨床実習Ⅱ	4前	7					臨	1	1	3	4		
	作業療法地域実習	4前	1					臨	1	1	3	4		
	小計（66科目）	—	86	0	0	—			5	1	3	4		兼12

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
③ 展開科目	マーケティング論	2後	1			○									兼1	※演習
	施設起業運営論	3前	1			○									兼1	
	ボランティア論	1前	1			○									兼1	
	子育て支援論	2前	1			○				1						
	災害支援論	1後	1			○									兼1	
	教育支援論	2後	1			○									兼2	
	メンタルヘルスマネジメント論	2前	1			○									兼1	
	障がい者スポーツ論	3後	1			○									兼1	
	障がい者スポーツ論実習	4前	1					○		1					兼2	
	地域社会共生論	1前	2			○									兼1	
	地域社会共生論実習	1後	1					○							兼1	
	精神障がい者就労環境論	3後	2			○									兼1	
	身体障がい者就労環境論	3後	2			○			1							
	就労環境論実習	4前	1					○							兼1	
	老年期地域生活適応論	3後		2		○									兼1	
	老年期地域生活適応論実習	4前		1				○							兼1	
	成人期地域生活適応論	3後		2		○									兼1	
	成人期地域生活適応論実習	4前		1				○							兼1	
	児童期地域生活適応論	3後		2		○									兼1	
	児童期地域生活適応論実習	4前		1				○							兼1	
	小計（20科目）		—	17	9	0	—			1	1				兼16	
④ 総合科目	協働連携論総合実習	4後	2					○		1	1				兼2	共同
	作業療法総合実習Ⅰ	4後	1					○		1	1	3				共同
	作業療法総合実習Ⅱ	4後	1					○		1	1	3				共同
	小計（3科目）	—	4	0	0	—				1	3	4		兼2		
合計（111科目）		—	118	11	0	—			7	2	3	4		兼42		
学位又は称号		作業療法学士 （専門職）		学位又は学科の分野				保健衛生学関係（リハビリテーション関係）								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
【卒業要件】 次により、必修科目118単位、選択科目12単位以上を修得すること。 1. 基礎科目20単位以上 （1）必修科目11単位 （2）選択科目9単位以上 ・人間と社会系科目の内から5単位以上を選択し、自然科学系科目と語学教育科目の内から4単位以上を選び、合計9単位以上を修得すること。 2. 職業専門科目86単位 （1）必修科目86単位 3. 展開科目20単位 （1）必修科目17単位 （2）選択科目3単位 4. 総合科目4単位 （1）必修科目4単位							1学年の学期区分				2学期					
							1学期の授業期間				15週					
							1時限の授業時間				90分					

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部 理学療法学科）			
科目 区分	授業科目の名称		備考
基礎 科目	初 年 次 教 育 科 目	学びの基盤	専門職大学での「学び」を考え、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得することを目的とする。各学科の教育内容を理解するとともに、大学で自律的に学ぶことの大切さ、その方法を学ぶ中で、4年間の学習過程に見通しをつけ、基本的な学び方（課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レジュメやレポートの記述、プレゼンテーション等の発表、ディスカッション等）を習得する。「授業のテーマ」「授業の概要」「授業の目的・ねらい」を踏まえ、どのように予習復習していくのかを学習する。到達目標としては、①大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、学ぶ道筋を立てることができる。②自身の力で課題に応じた情報や文献を検索することができる。③情報や文献を読解して内容を要約することができる。④構成を意識したレジュメやレポートを作成することができる。
基礎 科目	初 年 次 教 育 科 目	コミュニケーション論	コミュニケーションの基本概念と構造、非言語的コミュニケーション、言語的コミュニケーション、社会的相互作用等コミュニケーションについて深く理解するとともに、自己のコミュニケーション能力について洞察を深める。加えて、社会的役割と役割行動、コミュニケーション能力の自己評価を踏まえ、臨床における活用や意味について理解を深めていく。社会人に求められるより良いコミュニケーション、より良い人間関係を自ら作り上げることができることを目標とする。
基礎 科目	人 間 と 社 会 系 科 目	音楽	近年、音楽はストレスを解消し、免疫力を高める音楽の幅広い効能が心と体のセラピーとして注目を集めている。ミュージックセラピー（音楽療法）は、ストレスなどで病んだ心や体の症状を改善したり、痛みを緩和し生活の質の向上を図る目的で音楽を用いる療法である。この授業は、受講者自身が医療現場などで求められている音楽の効能に関心を持ち、音楽的な教養と豊かな感性を身につけ、リラクゼーションの手段として音楽を活用できることを目的とする。
基礎 科目	人 間 と 社 会 系 科 目	キャリア発達論	高度化する医療技術や、日々新たな発見がなされる知見など高度化が予想される今後の医療業界の中で、生涯にわたるキャリア発達とその支援に関する理論と実践について解説する。人間形成についての理解、リーダーシップ、また専門職、研究職としてキャリア発達への理解を深め、受講生自身のキャリア発達に繋がるよう授業を展開する。キャリア発達とその支援についての理論と実践について学習し、自身のキャリア発達「働くこと」「生きること」について将来への展望を持ち、「キャリア設計」を考え、実践していく力を身に付けることを目的とする。個人ワーク・グループワークを行うことで諸理論への理解を深めるとともに、実践力を高めていく。到達目標として、①キャリア発達の諸理論を理解し、広い視点で自身のキャリアを考えられるようになる。②社会的・職業的自立に必要な能力を理解し、自身のキャリア開発課題を明確化できるようになる。
基礎 科目	人 間 と 社 会 系 科 目	教育学	日本の教育や歴史的背景による社会における子供の位置づけを、文化や経済などと関連づけながら幅広い視点から理解することを目標とする。現代の教育が抱えている諸課題を歴史的視点にたって考察していく能力を養う。近代日本における教育の形成とその問題点を考察する。近代日本の教育を検討し、そのことを通して、現代の教育が抱えている諸問題を追究する。また、子どもたちが健やかに成長するにはどう導いていくべきなのか、過去の事例・事象なども検証する。さらに、学校だけでなく、家庭内での教育や社会人の人材教育などにも触れる。

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	人間と社会系科目	倫理学入門	倫理学の基本的な考え方を、講義、課題演習および思考実験を通して学ぶ。人間のあり方、生き方、社会のあり方を、学生のときに学習し、思想史の知識をさらに深めながら考えていく。さらに倫理思想の様々な倫理的問題と、それに対する多様なアプローチの特徴を理解し、その現代的意義を学習する。現代文明が抱える様々な倫理的課題を理解した上で、それについて思考するために伝統的倫理思想の理解と吟味が不可欠であることを確認する。	
基礎科目	人間と社会系科目	哲学入門	哲学の本質を初級者向けに解説しながら、哲学史の流れに沿って哲学の概論を講義する。西洋哲学以外の学問分野との関連づけもはかりながら古代ギリシア以来の哲学思想を西洋哲学史の流れに沿って近代の入り口まで紹介し、自分が既に習得しているさまざまな知識とうまく関係づけながら、哲学の歴史と基本用語を習得することを目標とする。それにより、最終的に、履修者自らが自分自身の世界観、人生観を構築する手掛かりを得られるようになることを目指す。	
基礎科目	人間と社会系科目	心理学	心理学は人の心の動きやそこから生じる行動について探求しようとする領域である。その領域は多岐にわたり、発達心理学、認知心理学、知覚心理学、臨床心理学、異常心理学、社会心理学など幅広い。本講義では、心理学の中でも人の理解につながる領域の基礎を学ぶ。知能の構造、知能の発達、性格の形成、人の欲求、適応と不適応行動、行動の展開、感情、記憶等人の理解につながる基礎を学び、人間の行動を科学的に観察する視点を養う。	
基礎科目	人間と社会系科目	経営学入門	国内外における経営学の基本的な論点と専門用語、また主要な概念を学び、現実の経営における現象・問題について考える能力を身につけることを目標とする。経営学の対象は営利企業に限定されず、医療機関等の非営利組織を包含する。本講義では、営利・非営利組織に共通して求められる、組織や人材マネジメント、経営戦略、事業戦略、新規事業開発におけるマーケティングなどについて理解する。特に保健・医療・福祉に関する経営について関心をもち、今後、医療・看護の対象となる人々を理解するための一つの視点として、経営学的視点を持てるようになることを目的とする。	
基礎科目	人間と社会系科目	社会学	社会学の基本概念のいくつかを学習することを通して、「社会学という学問」の考え方に触れ、社会現象を理論的に把握するとはどういうことかを考える。社会学における基礎的な概念を、現実的な問題と関連付けながら理解する。それを通して、社会的な視点を身につけることを目的とする。社会的な視点を通して私たちは当たり前に考えてきた社会を少し疑問をもって考えることができ、その疑問を通して得た考察から新たな支援や行動が生まれてくるのである。地域で生活を支援する職種にとってはなくてはならない視点である。この授業では、差別や偏見、ひきこもりなど様々な社会での出来事を社会学視点を通して学び、議論を行う。そして、医療従事者としてより深く社会を理解し、行動できる視点を身につけることを目標とする。	
基礎科目	人間と社会系科目	日本の伝統文化	【授業概要】 日本の職人は単に生計活動を営むだけでなく、さまざまなイメージをとまなう存在です。「職人」という言葉には熟練や生き方といった意味も込められています。本授業では日本の職人の歴史を通して、現代日本の職人文化について学びます。その際、具体的な職人の事例として、とくに近江（滋賀県）とゆかりの深い、木地屋（木地師）と鋳物師を取りあげます。なお、授業では、職人を題材とした絵画資料や映像作品の視聴をとおして、できるだけビジュアルに進めます。 【到達目標】 (1) 日本の職人の特質について理解する。 (2) 日本の職人のイメージと実態について理解する。 (3) 日本の職人をめぐる同時代的な社会背景について理解する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	人間と社会系科目	日本の近代史	この授業では、明治維新から現代に至るまで、日本の近代史・現代史の基本的な流れを、国家と地域社会の関係から概観する。私たちが生活する現代の日本と諸外国について正しく理解するためには、現状分析とともに歴史的な考察が必要不可欠である。特に、明治維新以降の近代史と、それに続く現代史は重要である。この授業では、中央集権化が指摘されることの多い日本において、国家と地域社会がいかなる関係にあったのか、特に地域社会の実態とそこからの視点を重視して考え、歴史を参考にして現代の国家、地域社会について深く考えられる力を身につけることを目標とする。	
基礎科目	人間と社会系科目	体育	この授業では、体育活動（身体運動）を通じて学生の健康的な生活実現のために必要な最大限の身体的、精神的、かつ社会的発達を助成、涵養することを目標とする。また、医療人として、また理学療法士、作業療法士としての教育を受ける中で、人間の運動の仕組みや身体の運動耐用能などを体育活動を通して学ぶ機会とする。様々なスポーツについて実践する機会を与えることにより、将来のリハビリテーション職の基礎となる、身体を動かすとは何か、運動の限界とは何かを体感する時間を提供する。また、この授業では、体育活動を通じたチームワークの形成から、コミュニケーション能力を身につけてもらうことも目標とする。	
基礎科目	自然科学系科目	生物学	生物学は私たちの生活と社会に密接に関わってくるサイエンスである。そのため、生物学の基本的な概念について学び、理解することは、私たちの生活と社会をより良くしていくためには必要不可欠な事柄である。この授業では、生物の動物性機能について理解し、説明できるようになることが主要な目標である。また、生物の高次機能や医学に関連した話題も取り上げて、生物学を学ぶ社会的な意義を考えるきっかけとなることを付随的な目標とする。	
基礎科目	自然科学系科目	物理学Ⅰ	物理学の基礎的なものの見方や理解の方法を身につけることを目的とする。身体運動に関与する力は、重力、外力、筋収縮にて発生する張力、摩擦力等である。筋と関節の構造は機械系のデコ構造に類似し、関わる力は力学的分析で説明される。生体の姿勢や運動を理解するためにニュートン力学を学ぶ。また、治療に用いられる温熱療法、電気療法、水治療法等を理解するための基礎となる熱の作用、流体力学、電気と磁気等の基礎を学ぶ。	
基礎科目	自然科学系科目	物理学Ⅱ	物理学Ⅰで学んだ、物理学の基礎的なものの見方や理解の方法をもとに、熱力学、電磁気学、波・波動などのより広い物理現象を対象として、医療の技術や医学を学ぶための物理的基礎のより広い習得を目指す。その中で、電子機器の発展に深くかかわってきた、物質の状態や、熱や光とのかかわりに関する理解を深める上で必要となる、物理・化学の基礎を学習する。さらに物理学の研究成果を工学技術等に応用された事例なども学び、より実用的な物理学を学ぶ。	
基礎科目	自然科学系科目	統計学	いままで確率や統計を詳しく習うことのなかった学生も多いため、確率・統計の基礎から推定・検定の考え方までを、実例を交えながら講義し、研究結果を解釈するために必要な統計学知識を持つことを目標とする。確率や初等統計の基礎から学び、統計データを適確に処理できること、また得られた結果を正確に理解、解釈するために必要な知識を学ぶ。また、実際に行われた研究を題材に、統計学的な具体的手法についても代表的なものを学ぶ。	
基礎科目	自然科学系科目	数学	基礎的な数学の内容の理解が目標であるが、具体的には式の計算、三角関数、指数関数、微分、微分の応用として関数のグラフの描画、積分の意味、ベクトル、統計のための確率の基礎を学習し、応用できるようになる事を目標とする。高校で学んだ数学を基礎に、微積分、ベクトル、離散数学（順列、組合せ、確率）についても講義する。これらをもとに、数学を応用し経済学や、数理統計学、人文科学といった応用数学にも触れ、自らが主体的に数学に触れ学ぶことを重視する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	語学教育科目	英語Ⅰ	大学の英語教育を通して「グローバル」とは何であるのかを今の自分たちの生活と将来の生活（仕事を含め）中でどう活かして行けるかを学習する。テキストでは多文化理解教育を様々なケースで読解し、また臨場感を持たせるビデオ教材を活用しながら基礎的な読解力とリスニング力を中心に学ぶ機会を与える。語学の授業は、聞いているだけでは理解できないし、上達しない。大学での英語教育の到達目標はインプットしたものをどうアウトプットするかを学ぶためグループワークやクラスへのフィードバックを通してインプットとアウトプットの大切さを知る。	
基礎科目	語学教育科目	英語Ⅱ	グローバル社会、グローバリズム、グローバル化という広く一般に使われている言葉の意味を学ぶために英語4技能の向上と幅広い知識を習得し、テキストを利用しながら様々なケースを知る。臨場感を持たせるビデオ教材を活用しながら応用的な読解力とリスニング力を中心に学ぶ機会を与え、社会・文化・学術交流の英語力、知識、異文化理解力をつける。 語学の授業は、インプットしたものをアウトプットすることで実践的な英語力が身につく。実践的に「読み、書き、リスニング、スピーキング」することでさらなる英語力を磨きます。また新しい知識を自分の言葉で他者と話し、考える機会を多く作るため、論議できるスキルを習得し、積極性を身に付けることも大切な到達目標の要素である。	
基礎科目	語学教育科目	韓国語	授業では、ハングルの読み書き、発音変化、文章構成、辞書の使い方など、韓国語学習のための基礎を学ぶ。学生が日本語や英語等すでに習得している言語と比較しながら、可能な限り韓国語の文法規則を自ら見いだせるよう、単文の構造、品詞の形等を提示する。韓国語の基本的な構造を踏まえながら、日常会話を学習する。また、韓国の歴史、社会、文化などを理解することを目標とする。韓国語の特徴を理解するとともに、言語普遍性の観点から日本語との比較し、韓国語の基本構造と韓国文化を学習することで、外国語、外国文化への理解を深める。	
基礎科目	語学教育科目	中国語	発音の基本、人称代名詞、指示代名詞、疑問詞、動詞の文、助数詞、形容詞の文など、問題練習を通して学習事項の定着を図るとともに、視聴覚資料を使って、中国や中国文化に関する理解を深める。授業では、中国語であいさつと簡単な日常生活ができるようになり、かつ、中国語の基礎文法を身につけ、簡単な中国語の文章が読めるようになることを目標とする。標準的な中国語の発音をしっかり身につけると同時に、中国語基礎文法を学ぶ。また、実用性の高い日常会話を発音練習と文法習得の中に取り入れ、中国語の応用能力を高める。	
職業専門科目	理学療法理論科目群	解剖学Ⅰ	解剖学Ⅰでは、人体を構成する細胞、組織、器官が階層性を持っていることを理解した上で、骨学、関節学、筋学についての基礎的な知識を習得する。そしてそれらの知識を統合し、身体の運動を説明できることが目標となる。内容は、人体の解剖学用語や人体の構成と発生などの解剖学総論、骨学総論から頭蓋・脊柱・胸郭・上肢・下肢の骨学各論、関節学総論から各関節の構造と運動方向、筋学総論から各骨格筋の部位・起始・停止・支配神経・作用について学習する。さらに応用として、日常生活の基本的動作を解剖用語で説明できることが望ましい。また人体解剖実習を通して実習の倫理的側面を理解する。	
職業専門科目	理学療法理論科目群	解剖学Ⅱ	解剖学Ⅱの授業目標は中枢神経系および末梢神経系について理解を深めることである。神経系が中枢神経と末梢神経で構成されていることを理解し、運動を、中枢神経からの指令が末梢神経に伝わり、筋の収縮、関節の動きまでの一連の流れとして説明できる。また知覚を、感覚受容器で捉えられた刺激が、末梢神経を通して中枢神経へ伝えられ、認識されるまでの一連の流れとして説明できる。さらに脳や脊髄の障害が運動や感覚の異常とどのようにつながるかを説明できるようになること。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	理学療法理論科目群	解剖学Ⅲ	解剖学Ⅲでは、各内臓、および感覚器についての基本的な知識を習得することが目標となる。内容は消化器（胃、膵臓、肝臓、腎臓、脾臓、膀胱、小腸、大腸など）、呼吸器（気道、気管支、肺、胸郭、横隔膜など）、循環器（動脈、静脈、心臓、脳循環、門脈系など内臓、胎児循環）、免疫系（リンパ系）、内分泌系（下垂体、松果体、甲状腺、副腎など）、感覚器（皮膚、視覚器、聴覚器など）、生殖器の各構造と基本的機能を説明できることが目標となる。	
職業専門科目	理学療法理論科目群	生理学Ⅰ	医療の現場で問題に直面した際に、専門職として正しい判断をするための基盤となる人体機能についての基礎知識を習得する。本講義では、血液、循環、呼吸、内分泌、生殖、消化・吸収、腎機能などの生理機能系の仕組みとその働きについて学ぶ。毎回の授業で提示される課題について各自で検索・考察することによって人体機能についての理解を深め、医療に関わる者に必要とされる人体機能についての専門的基礎知識を習得し、チーム医療の一員として必要な素養を身につけることを目標とする。	
職業専門科目	理学療法理論科目群	生理学Ⅱ	医療の現場で問題に直面した際に、専門職として正しい判断をするための基盤となる人体機能についての基礎知識を習得する。本講義では、ニューロン機能、感覚機能（平衡感覚、聴覚、体性感覚、視覚、味覚、嗅覚）、運動機能（筋収縮、脊髄、大脳皮質運動野、伝導路、脳幹、大脳基底核、小脳）、自律神経機能、高次脳機能などの生理学的仕組みとその働きについて学ぶ。毎回の授業で提示される課題について各自で検索・考察することによって人体機能についての理解を深め、チーム医療の一員として必要な生理学の素養を身につけることを目標とする。	
職業専門科目	理学療法理論科目群	運動学Ⅰ	理学療法にわたる運動学は、「人間の運動の科学」であり、身体構造を学ぶ解剖学、身体機能を学ぶ生理学、そして、身体および身体各部を物体とみなした時の力学を基礎とした応用科学であることについてまず理解する。授業目標は四肢・体幹の解剖学を基本として、身体各部の構造と機能に応じた運動について理解することである。内容としては、脊柱・股関節・膝関節・足関節・肩関節・肘関節・手関節と手部の構造と動き及び筋活動と動き、胸郭運動と呼吸、股関節について学習する。	
職業専門科目	理学療法理論科目群	運動学Ⅱ	授業目標は、人の身体運動の力（モーメント）といったバイオメカニクスに関する知識、正常運動発達、並びに姿勢制御について学び、身体運動の理解を深める知識と思考力を獲得することである。 （オムニバス方式／全15回） （⑩ 安田孝志／7回） バイオメカニクスの基礎知識として、ベクトル、関節モーメント、重心、仕事、立ち上がり動作とモーメント、正常歩行の基礎知識、歩行時の床反力と関節モーメントなどについて学習する。 （⑧ 里中 綾子／4回） 運動発達では、新生児の特徴、その発達時の特徴を理想的な発達と、異常な発達に分けて理解していく。また、生まれながらに持っている、反射や反応、その誘発方法と特徴を学習する。 （⑫ 藤谷 亮／4回） 姿勢制御概念の成り立ち、理学療法評価における姿勢制御機能の意義について学習する。バランス障害への理解を含め評価・治療に繋がる基盤を作る。	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	理学療法理論科目群	運動学実習	授業目標は、運動学で学んだことを基盤として、正常な姿勢や運動を臨床的手法としての観察・分析だけでなく、動作解析装置を使用してバイオメカニクスの視点から分析能力を養い、評価から治療に至る仮説検証過程を理解することである。 (オムニバス方式／全15回) (⑱ 安田 孝志／8回) 三次元動作解析装置、床反力計などを用いて、運動時における関節運動とモーメントを計測し分析するという一連の流れをグループワークにて計測を行う。それらのデータをもとに分析、考察を行うことでバイオメカニクスにおける基礎を養っていく。 (⑳ 藤谷 亮／7回) 特殊な機器を使用しない臨床的姿勢観察と分析、姿勢の評価、寝返り起き上がりの運動観察と分析、立ち上がりの運動観察と分析、歩行の運動観察と分析、姿勢や歩行に見られる異常姿勢と運動分析について学習する。	オムニバス方式 実習20時間 講義10時間
職業専門科目	理学療法理論科目群	運動生理学実習	運動方法と筋骨格系機能の変化について講義と演習を交えて教授する。そして、どのような運動を行うかによって、呼吸、循環、代謝機能がどのように変化するかについても理解できるように講義と演習を交えて教授していく。運動の種類によって、筋機能にどのような影響を及ぼすかについて習得する。筋電図、超音波装置、等速性運動装置などを用いて、筋収縮時の生理学的反応を解析し、そのデータの解釈と運動指導に応用できる知識と技術を習得してもらうことも目的とする。また、運動負荷試験などを体験し、そのデータの分析・解釈を学び、運動指導に応用できる知識と技術を習得することも目的とする。この授業の目標は、運動における身体機能の変化や、測定方法やトレーニング効果について運動生理学的な視点から理解することである。	実習20時間 講義10時間
職業専門科目	理学療法理論科目群	人間発達学	ライフステージに合わせたリハビリテーションを行うために、人の成長や発達の視点は重要である。本講義は誕生から老年までの全生涯を通して、人間がどのようにして発達していくのか、またどのような要因が発達に影響するのか理解することを目的とする。人間発達を理解する上で重要となる理論背景について学習し、また人間の発達を、胎児期から乳幼児期、成人期といったライフステージにそって、形態・機能的側面、さらには認知的および情緒・社会的側面から学習し総合的に人間の発達に対する理解を深める。	
職業専門科目	理学療法理論科目群	救急援助論	医療職にとって、救急患者への対応、特に救急の初期対応は必ず身につけておくべき知識・技術である。この講義では、救急対応が必要な患者の徴候、原因疾患、救急初期対応に関する知識・技術を習得することを目標とする。特に医療職にとって必須の知識・技術である一次救命救急処置が実践できることを目標とする。	講義13時間 実習2時間
職業専門科目	理学療法理論科目群	内科学Ⅰ	内科疾患の基本知識は医療に携わるにあたっては必要なことであり、授業目標は内科の診断法、検査、循環器・呼吸器・消化器といった主要な疾患について知識を修得することである。内容としては、診断法、身体診察、バイタルサインなどの診断学、循環器・呼吸器・消化器などの主要症候とその検査、遺伝子異常・染色体異常・老化・腫瘍などの病態、呼吸器疾患の症候と診断、循環器疾患の症候と診断、消化器疾患の症候と診断などについて学習する。	
職業専門科目	理学療法理論科目群	内科学Ⅱ	授業目標は、医療現場で常に注意が必要な感染症、基礎疾患として多くの人が罹患している代謝疾患、内分泌疾患、血液造血器疾患、腎泌尿器系疾患、免疫疾患、生活習慣病など内科疾患について知識を修得することである。内容としては、感染症の病原体と感染経路、感染対策と予防策、細菌感染症やウイルス感染症など感染症、糖尿病や脂質異常症などの代謝疾患、下垂体・甲状腺疾患などの内分泌疾患、各種血液疾患、腎不全などの泌尿器系疾患、免疫不全や自己免疫疾患などの免疫疾患といった各疾患の原因、病態、診断と治療と予後について学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	理学療法理論科目群	神経内科学Ⅰ	授業目標は、神経内科疾患の中でも神経難病を中心に、その病態と治療などについて理解することである。内容としては、神経症候学の概要や主要な神経疾患であるパーキンソン病、多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症などの神経疾患、筋ジストロフィーなどの筋疾患などリハビリテーションの対象となることの多い神経難病について、病態、病理、症状、治療、予後等について学習する。これらの病態と治療を理解することで各疾患の予後を視野に入れたリハビリテーションにおける知識の基盤を作ることを目的としている。	
職業専門科目	理学療法理論科目群	神経内科学Ⅱ	授業目標は、脳神経疾患とその治療について理解することである。具体的には、脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷、中枢神経系の奇形、水頭症、脊髄疾患、脊椎腫瘍などのリハビリテーションの対象となることの多い疾患について、診断と治療法の概要やその経過について学習する。各中枢神経系疾患の病態から内科的・外科的治療に至るまでの内容を理解することで、リハビリテーションの実施に必要な基礎知識を固めていくことを目的としている。	
職業専門科目	理学療法理論科目群	整形外科Ⅰ	授業目標は、リハビリテーションの対象となる整形外科疾患の病態、診断と治療について理解することである。整形外科Ⅰの内容としては、整形外科の対象疾患と診断と治療法などの総論、各論として関節リウマチ、慢性関節疾患、循環障害、骨粗鬆症などの代謝性骨疾患、骨腫瘍、整形外科の神経疾患などの病態と診断・治療について学習する。また治療については保存的なものから手術を中心とした外科的療法まで多岐にわたることから、基本的な考え方やその特殊性を理解できるように学習する。	
職業専門科目	理学療法理論科目群	整形外科Ⅱ	授業目標は、整形外科Ⅰで修得した整形外科の基礎知識と考えたかをもとに、部位別疾患と外傷学について理解を深め、その病態理解に必要な解剖やバイオメカニクス、診断と治療について理解することである。内容としては、手と手関節、頸椎と胸椎・腰椎、股関節、膝関節、足関節など各部の機能解剖と病態、その診断と治療について学習する。また外傷や軟部組織損傷、骨折や脱臼などの病態と診断・治療について学習する。また治療については保存的なものから手術を中心とした外科的療法まで多岐にわたることから、基本的な考え方やその特殊性を理解できるように学習する。	
職業専門科目	理学療法理論科目群	精神医学	本授業は臨床に必要な精神医学の基礎知識を理解することを目指す。総論では、精神医学の歴史から治療と処遇の変遷、精神発達と医学心理学、精神症候学概論について解説する。各論では、気分障害や統合失調症、不安障害、認知症、ストレス関連障害などそれぞれの精神疾患の概念、疫学・病因・分類と症状・診断・経過と予後・治療について学習する。最後に精神疾患の重要な治療法である薬物療法の学習を通して、向精神薬の種類や作用機序について理解を深める。	
職業専門科目	理学療法理論科目群	小児科学	授業目標は、成長や発達過程にある小児の特徴を踏まえて、主にリハビリテーションの対象となる新生児、小児疾患について理解することである。内容としては、新生児と未熟児の理解、遺伝子疾患や先天異常、内分泌疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、中枢神経疾患、てんかんなどの原因や病態。また発達遅滞を伴う疾患として脳性麻痺や知的能力障害、注意欠陥多動性障害や自閉症スペクトラム障害などの発達障害、脊髄小脳変性症などの脊髄性疾患、筋ジストロフィーなどの筋系疾患、先天性股関節症などの骨・関節疾患などの原因、病態、症状、予後について学習する。	
職業専門科目	理学療法理論科目群	老年医学	授業目標は、老化の機序、高齢者に多い疾患とその特殊性、高齢者に見られる生活機能障害について理解し、疾患の治療だけでなく全人的包括医療の視点に立ってQOLの向上にむけた医療やケアの基礎知識を修得することである。内容としては、細胞老化や機能老化・寿命因子など老化のメカニズム、基礎的身体機能や認知機能など高齢者評価、摂食障害・排尿障害・歩行障害や精神障害などの老年症候群、循環器系疾患・呼吸器系疾患・内分泌系疾患・神経疾患など高齢者に見られる疾患の症状や治療と支援について学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	理学療法理論科目群	薬理学概論	薬理学は、医療の現場で益々重要性が増している薬物療法における薬剤の作用メカニズム、薬理作用及び動態について生化学や生理学などの知見に基づいて理解しようとする学問領域である。本講義では、医学・医療における基礎科学の重要な分野の一つとして、医療従事者に必須な薬理学的知識及び創薬について修得し、薬物療法に関する科学的な基盤作りを目標とする。更に、高血圧、糖尿病、精神病など、リハビリテーションの対象となる疾患のための薬物については、訓練との関係から禁忌事項などについても学習する。	
職業専門科目	理学療法理論科目群	予防医学	現在の日本では、ライフスタイルの変化、高齢化、ストレス過剰、環境汚染などを背景として生活習慣病や心の病が増加している。予防医学は、健康維持・増進や疾病の発症・再発の予防に向けて、その考え方や知識、方法や施策について理解を深めることを授業目標とする。内容としては、健康増進と予防医学の概念、健康問題と施策、高齢化社会と介護予防、生活習慣と予防、運動と予防、ストレスとメンタルヘルスなどについて学習する。 (オムニバス方式／全8回) (1) 山川 正信／6回 予防医学の概念と、健康維持・増進や疾病の発症・再発の予防に向けて、その考え方や知識、方法や施策について学習する。 (5) 分木 ひとみ／1回 生活習慣病予防について学習する。 (14) 鈴木 美香／1回 介護予防について学習する。	オムニバス方式
職業専門科目	理学療法理論科目群	画像診断学	授業目標は、基本的な医学的情報（特に画像）の知識の獲得とする。授業は、カルテ情報の読み方、血液・生化学データの基礎知識、レントゲンの基礎知識、MRI、CTの画像の読み方の基礎を経験し学習する。さらに、各種画像検査の原理、検査方法について理解を深める。また、代表的な疾患の特徴や病態、重症度と関連付け、正常画像解剖学とあわせて学ぶ。実践の場でどのような情報交換をしていくかを、さらに具体例を通して講義する。	
職業専門科目	理学療法理論科目群	栄養学	栄養は、健康の保持・増進に密接に関わり、その過不足やバランスの偏りは疾病を引き起こす要因となる。高齢者や疾病者および障害者においても、治療やリハビリテーションの効果を最大限に発揮するためには個々人の状態に合わせた栄養療法が不可欠である。栄養学では、医療従事者として医療現場での栄養療法を理解するために必要な栄養学の基礎知識を修得することを授業目標とする。内容としては、栄養状態の評価と判定、糖質・脂質・タンパク質の三大栄養素と代謝、栄養素の消化と吸収、栄養素の体内代謝、栄養ケア・マネジメント、ライフサイクルと栄養、健康づくりと食品・食事・食生活などについて学習する。	
職業専門科目	理学療法理論科目群	社会福祉学	社会福祉は私たちが安心して生活し、自分たちの可能性を伸ばせるように、社会的施策として整備されてきた。本講義では、社会福祉の歴史、理念、仕組みを学び、リハビリテーション職に必要な、社会福祉の考え方を身に付けていく。また主に高齢者、障がい者に関する現代社会の問題点を提示し、将来、臨床で活かすべき基礎的な知識や考え方も学ぶ。前半は講義中心で、後半はテーマに沿ったグループワークを行い、自分たちで文献を調べ、パワーポイントでスライドを作成しプレゼンテーションをする。講義全体を通して小論文や課題レポートを提出し、自らの考えを深め、表現する場にもする。	
職業専門科目	理学療法理論科目群	地域包括ケア論	現在、日本は人口の減少と少子高齢化が進むなかで、“住み慣れた地域で医療や福祉サービスが提供される地域包括ケアシステムの構築”が課題となっている。地域包括ケア論は、その地域包括ケアシステムの制度や地域の現状と課題の理解を深め、実践のあり方について理解することを授業目標とする。 (オムニバス方式／全15回) (13) 弘部重信／3回 地域包括ケアシステムの概要について学び、地域包括ケアシステムを支える専門職の役割について知ることを目標とする。 (14) 鈴木美香／12回 地域包括ケアシステムを取り巻く政策と動向、現状とその課題を知り、事例検討を通して地域包括ケアシステム構築に向けた社会の在り方について学ぶ。	オムニバス方式 講義18時間 演習12時間

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	理学療法理論科目群	リハビリテーション概論	リハビリテーション概論では、障害を様々な観点から理解し、リハビリテーションの目標である「最高の人生の質 (Quality of life) の獲得」のために、リハビリテーションの概念と流れの理解、障害モデルの理解、関係職種の役割の理解とどのようなアプローチが必要かを考え、その手段の概要を理解することを目標とする。リハビリテーションの理念と定義、歴史と思想の背景について学習する。また、リハビリテーションにおけるチーム医療と各専門職種の役割を知り、リハビリテーションの手段・進め方自立支援、就労支援から車いす介助、リフト体験等の実践を行い、さまざまな疾患について学習する。	講義18時間 演習12時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	職業実践科目群	基礎理学療法学Ⅰ	理学療法とは何か、理学療法士とは何かを学ぶために、理学療法士を取り巻く法律や制度について学習するとともに、その需要と供給の在り方や将来像についても学ぶ。また、理学療法士の役割とその職域についても学び、自身の将来の理学療法士像を明確にしていく一助とする。さらに、国際障害分類から国際生活機能分類(ICF)への移行の歴史を学び、実際にグループワークで議論した想定患者のICFによる項目と、その根拠となる考え方を発表することにより、具体的なICFの使い方に精通する授業科目とする。その他、科学的根拠に基づく医療や世界の理学療法士と日本の理学療法士の違いについてなども講義する。実際に医療機関で働くにあたり必要となる、人の管理、感染管理、経済的な管理についても触れることにより、組織社会の概要をつかむ。	講義12時間 演習3時間
職業専門科目	職業実践科目群	基礎理学療法学Ⅱ	理学療法の全体像を把握し、理学療法の仕事について理解する。医療専門職種として求められる基本的素養を身につけ、理学療法士を目指して学習していく上で、必須となる基本姿勢・学習態度・目的意識を明確にすることを目的とする。講義の概要としては、①理学療法の対象と障がい構造、理学療法の分類（運動療法、物理療法）について理解する。②各機能障害に対する理学療法について理解する。③理学療法における学問体系と研究について理解する。④理学療法における卒後教育について理解する。	
職業専門科目	職業実践科目群	基礎理学療法学実習Ⅰ	物理学を基礎とした身体運動、つまりボディメカニクスについて理解することにより、介助者、被介助者の双方に安全で快適な動作介助の基本的知識について学習する。 本講の目的としては、ボディメカニクスを用いた各基本動作（ベッド上の移動や寝返り、起き上がり、立ち上がり、移乗動作、歩行介助など）の動作介助法を習得することとする。 授業形式は、実技を中心とする。実技においては介助者、被介助者役を交互に経験することにより、介助方法の違いにより実際に非介助者がどのように感じるのかについて学ぶことにより、よりよい介助のあり方を理解する。	実習24時間 講義6時間
職業専門科目	職業実践科目群	基礎理学療法研究法	理学療法分野における研究の意義や目的、その歴史的背景を中心に学ぶ。理学療法の歴史を学ぶ中で、基礎研究、臨床研究の必要性を理解するとともに、研究・調査の社会的意義と役割を理解することを目的とする。またグループワークにおいて理学療法分野における英語論文の抄読を行い、その研究デザインや手法から何が明らかになるのかなど批判的に吟味するための知識や論理的思考、分析能力を身につけることを目的とする。	講義12時間 演習3時間
職業専門科目	職業実践科目群	基礎理学療法学実習Ⅱ	授業目標は、触診技術論で学習した内容をもとに、骨・関節・筋の触診技術習得と触診を通して、認識できた組織に対して、それが皮膚下において形、大きさ、硬さ、位置、走行、運動性について理解する。また、解剖学的位置でのみなく、さまざまな関節の肢位や姿勢の変化による組織変化についても理解する。内容としては、演習を通して上肢帯・肩関節・肘関節・前腕・手関節・手部・下肢帯・股関節・膝関節・下腿・足関節・足部・脊柱・骨盤の各身体部位の触診法と四肢・体幹の機能解剖について学習する。	実習24時間 講義6時間
職業専門科目	職業実践科目群	臨床技能論実習	リハビリテーション医学・医療は「学習の医学・医療」であり、臨床において患者に適切な治療ができ、有効な経験が積み、その中で生涯伸び続けることが重要である。そのため、実践能力の高い理学療法士となるため、社会人としてのマナーや技術力、判断力など臨床現場で必要とされる理学療法のスタンダードを学び、目的、適応、方法など一連の過程が実践できる臨床能力養う。 授業では、患者役・学生役・評価者の3名1組となり、患者役・学生役は、模擬患者を設定した様々な課題に取り組み、評価者は、手技の関する評価用紙を用いて客観的に評価し、フィードバックを行う。これにより、自分自身の問題のみならず他の学生が陥りやすい問題を共有し、修正するための練習を行うことで理学療法士としての実践的なスキルアップを図る。 理学療法士に必要な標準予防策、リスク管理、コミュニケーション技法・面接を学び、整形外科や脳血管障害の代表疾患を想定した模擬患者に対して、理学療法評価、理学療法治療技術及び介助技術を行い、グループでフィードバックを行い、改善に向け練習し、スキルアップを図る。	実習20時間 講義10時間
職業専門科目	職業実践科目群	理学療法管理学	理学療法士として医療機関、その他の施設に勤務する上での管理の概念とその方法についての思考力を身につけることを目標とする。例えば人の管理においては、自分自身の管理を含めた人的管理や、ストレス評価やその対応、さらに各個人の性格などから人的管理の概念や手法を学ぶ。また、組織としての管理では、医療機関という特殊性における感染対策の具体的な例と、病院内での感染対策の方法論についても学ぶ。特に、インシデントの考え方とその価値について事例検討を学習する中で具体的なイメージを獲得してもらう。そのほか、経済面や法律面についても本授業において触れる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	職業実践科目群	保健医療福祉関連制度論	日本における医療と福祉の制度について学ぶ。日本の特殊性、すなわち国民皆保険制度について世界の保険制度との比較から、そのメリットとデメリットを考えることにより、これからの日本の医療制度の在り方について考察する。また、世界が注目する日本の少子高齢化と、その対処法としての介護保険制度についても学ぶ。介護保険の歴史から、その未来を人口比率の変動と日本の経済の未来に照らし合わせて概観する。本授業の目標として福祉制度について現在の制度とその問題点を、議論することから認識し、今後日本の医療福祉を担う人材としての考え方を獲得することである。	
職業専門科目	職業実践科目群	理学療法評価学	理学療法士の役割は、対象者が社会復帰し継続できるように、情報収集や評価を行い、身体機能・能力を分析し、効果的な介入をすることである。この授業では、理学療法における評価の意義を理解し、各評価手技を身につけ、結果を適切に記録し、分析できることを目標とする。情報収集、医療面接の方法と活用の仕方まで、理学療法士が行う各検査の意義を知り、適切に検査測定する方法を教授する。授業形式は、講義で検査の意義を学び、その後、学生同士で検査手技を練習する形で行う。検査者・患者役を交互に経験することで、患者の状態に配慮した検査が実践できるように授業をすすめる。	講義20時間 演習10時間
職業専門科目	職業実践科目群	理学療法評価学実習	理学療法評価における検査・測定の目的を理解し、正確に実施できる技術を身につけることを目標とする。理学療法の対象者をどのような視点で理解すればよいのか、また対象者の病態理解と問題分析のためにどのような具体的な方法があるのか総論的な内容を学習し評価法の各論を学ぶ。 (オムニバス方式／全30回) (⑪ 宇於崎 孝／26回) 関節可動域検査といった基本的理学療法評価を学びます。基本となる肢位、姿勢、また注意点を必ず押さえるとともに、教科書を見ることなく実施できるようになることを目標に進めていきます。また、道具を必要としない筋力評価、徒手筋力評価について学習する。肢位、段階付け、代償など注意点を抑えながら実技を習得していく。また痛みや高次脳機能検査などについても学ぶ。 (⑲ 大西 均／4回) 解剖学、運動学を整理しているからこそ理解して、実施できるテストが整形外科的テスト、筋緊張検査になる。各検査の目的・意義が理解できることが目標となる。	オムニバス方式 実習40時間 講義20時間
職業専門科目	職業実践科目群	理学療法評価学演習	臨床場面で求められる理学療法評価の思考過程が理解できることを目標とする。この授業では、整形外科領域、内部障害領域、中枢神経領域に分野を分け、各担当教員が講義と実技を行う。これまで学習した疾患に対する評価項目が適切に選択でき、適切な統合解釈および理学療法プログラムを立案ができるようになることを目標とする。 (オムニバス方式／全15回) (⑯ 山内 正雄／5回) 整形外科領域に対する評価について講義・実習を行う。各疾患の病態を理解した上で、各種テストを行う意義、方法を学習する。 (⑬ 弘部 重信／5回) 内部障害領域に対する評価について講義・実習を行う。各疾患の病態を理解した上で、各種テストを行う意義、方法を学習する。 (⑳ 藤谷 亮／5回) 中枢神経領域に対する評価について講義・実習を行う。各疾患の病態を理解した上で、各種テストを行う意義、方法を学習する。	オムニバス方式 演習20時間 講義10時間
職業専門科目	職業実践科目群	画像評価学	理学療法で必要な運動器および内臓の画像評価について学習する。画像評価を学ぶことにより、患者の病態を踏まえた合理的な理学療法介入、検査・測定の計画を立てる際の一助とすることができるようになることを目標とする。 (オムニバス方式／全8回) (① 金沢伸彦／6回) 理学療法士に必要な画像読影に関して、運動器の正常レントゲン・MRI・超音波画像評価、および代表的な外傷の超音波画像評価について学習する。 (② 篠田恵一／2回) 胸・腹部の疾患に関する各画像の読影・評価に関して学習理解し、画像所見をリハビリテーションの方針決定に利用できることを目標とする。	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	職業実践科目群	運動療法学	本授業では、解剖学、生理学、運動学を基盤にして、運動を行うことが身体にどのような影響を及ぼすのかを十分に理解した上で、エビデンスに基づいた運動療法について学習してもらう。姿勢・運動制御、筋力、協調性、関節可動域、持久力を改善させるための運動療法、また、疼痛改善のための運動療法についても教授し、これらの運動療法を実施したことによる身体の反応やその効果について理解してもらうことを授業目標とする。また、これらの運動療法の適応とリスクについても理解してもらい、臨床において安全かつ効果的な運動療法が処方、実施できる知識を身につけることもこの授業の目標とする。	
職業専門科目	職業実践科目群	運動療法学実習	本授業では、運動療法学で学習した各種運動療法の知識を基に思考し、臨床現場においても各種運動療法が安全かつ効果的に実施できるよう実技を中心に実習を行う。姿勢・運動制御改善のための運動療法、筋力増強のための運動療法、協調性改善のための運動療法、関節可動域改善のための運動療法、持久力増大のための運動療法、また、疼痛改善のための運動療法の具体的な実施方法や留意点について学び、各種運動療法を実践するための治療技術を身につけることを目標とする。	
職業専門科目	職業実践科目群	徒手理学療法学	多くの徒手理学療法概念の中から、北欧発祥のコンセプトであるカルテンボルンエビエントが提唱している概念について理解することを目的とする。本講義では、関節運動学に基づく評価および治療の基本原理から、各種整形外科的検査の手法やその有効性について学修する。また、治療的手技のストレッチングや関節および軟部組織モビライゼーションの治療効果のエビデンスを示し、徒手理学療法の評価から治療流れについて論理的過程を概説する。さらに、クリニカルリーズニングの方法と、症例における実例を紹介し理学療法士としての基本的な思考過程について示す。	講義20時間 演習10時間
職業専門科目	職業実践科目群	徒手理学療法学実習	本講義では、四肢関節の運動機能障害に対して、関節運動学に基づく具体的な評価方法、および徒手理学療法の基礎について理解し実施することを目的とする。実技では、上下肢の各関節に対しての基礎的な評価方法および関節モビライゼーションを実施する。また、代表的な筋に対してのストレッチングおよび軟部組織モビライゼーションについても実施する。さらに四肢関節の代表的な疾患について、脊椎機能障害との関連も考慮した徒手理学療法やスポーツにおける運動機能障害に対する評価および治療方法が理解できるよう学修する。	実習24時間 講義6時間
職業専門科目	職業実践科目群	物理療法学	本授業では、生理学を基盤にして、電気刺激、寒冷刺激、温熱刺激などの物理的エネルギーを身体に加えることにより、身体にどのような影響を及ぼすのかを十分に理解した上で、エビデンスに基づいた物理療法について学習してもらう。電気療法、寒冷療法、温熱療法、光線療法、水治療法、そして、電気診断について教授し、これらの物理療法を実施したことによる身体の反応やその効果について理解してもらうことを授業目標とする。また、これらの物理療法の適応とリスクについても理解してもらい、臨床において安全かつ効果的な物理療法が処方、実施できる知識を身につけることもこの授業の目標とする。さらに、物理療法は運動療法と併用することにより効果的な理学療法を展開できるようになる。例えば、選択的冷却法（寒冷刺激）などの物理的エネルギーにより、筋活動や筋力がどのように変化するかなどを知った上で、物理的エネルギーを利用することで効果的な選択的筋収縮トレーニングが実現可能となるため、物理療法を運動療法に応用することの重要性について理解してもらうこともこの授業の目標とする。	講義10時間 演習5時間
職業専門科目	職業実践科目群	日常生活活動学	ADL(Activities of Daily Living)の概念・範囲を理解し、リハビリテーション医療における位置づけを理解する。その上で、ADLとQOLの関係を理解し、対象者の「生活」や「人生」によりよい支援が行えるようリハビリテーション専門職としての基盤を形成する。本講義の目標は、代表的なADL評価およびQOL評価を学び、適切に実施できること、身のまわり動作の特性を理解でき生活を支援する様々な福祉用具について理解すること、障害に合わせた福祉用具の選定ができ、適切な使用方法を指導できること、・疾患別に障害の特性を考慮したADL指導ができることとする。 (オムニバス方式／全15回) (⑥ 植田 昌治／7回) ADLの概念を理解し、ADLの対象と範囲を理解できる。その上で、ADLとQOLの理解を深める。ICFの構造の中でADLの位置づけを理解し、理学療法士の過程におけるADLを理解できる。続いて、代表的なQOLおよびADL評価の概要を学び、Barthel IndexとFIMは特に詳細に解説し、適切に実施できるレベルになることを目指す。福祉用具の種類とその役割と入手の際に利用できる社会保障制度について理解する。 (⑫ 川崎 浩子／8回) 身のまわり動作の特性を理解でき、ADLを支援する様々な福祉用具について理解すること、障害に合わせた福祉用具の選定ができ、適切な使用方法を指導できること、・疾患別に障害の特性を考慮したADL指導ができることを目標とする。	オムニバス方式 講義24時間 演習6時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	職業実践科目群	義肢装具学Ⅰ	理学療法士の業務の中で、装具や義足は様々な障害の治療手段の1つとして重要である。四肢・体幹の各部位に使用する装具や義肢の分類、様々な装具や義肢の種類や名称を学習する。理学療法士がかかわる頻度の高い各装具の扱い方や調整技術も学ぶ。疾患別の装具を紹介し、腰痛に対する体幹装具の考え方や効果と副作用、脊髄損傷に対する代表的な装具とその適応範囲、末梢神経障害に対する装具、体幹装具について学ぶ。 腰痛に対するコルセットが及ぼす効果やその副作用について、最新の筋電図学的研究を基に概説する。さらに、他の疾患に対する装具・義肢の使用法、その名称について概説する。本科目の到達目標は義肢や装具の種類と名称が述べられ、そのメカニズムの説明ができることを目標とする。	
	職業実践科目群	義肢装具学Ⅱ	理学療法士の業務の中で、装具や義足は様々な障害の治療手段の1つとして重要である。また、日進月歩で開発・発展し続けており、新しい情報も学生に提供する。 実物を用いて、その種類・名称と構造・機能を確認する。義肢・装具の適応とチェックアウトを学ぶ。また、義肢装具を用いたリハビリテーションの評価・治療プログラム、生活指導の実際についても講義する。 スポーツ障害に対する装具では、足関節装具を最新の研究とともに紹介し、その応用方法についても解説する。また、下肢装具については、足関節をどのような手法でコントロールするのか。そして足関節のコントロールが、膝関節や股関節にどのように影響するのかを考えながら、深い考察を求める。膨大な数の装具の種類も網羅するが、運動学の知識とリンクした装具の基礎的な考え方を獲得してもらう。本科目の到達目標は義肢や装具が手元に到着した際のチェックアウトができること。最新の義肢装具の特徴について述べるができること。各種疾患（特に脳卒中とスポーツ障害）に対する装具療法について述べられることである。	
職業専門科目	職業実践科目群	神経障害系理学療法学実習Ⅰ	地域での生活を継続するための支援を目的としたアプローチは障害を治すのではなく動作能力を改善したり持続するための活動の学習であると捉え、学習の具体的支援の方法を学ぶことが狙いである。目標は1、学習の阻害因子を知ることができる。2、情動・報酬系の機能を理解することができる。3、過剰な自己保存の反応について知ることができる。4、不安を軽減し能動的な発動を促すためのアプローチができるようになることである。	実習20時間 講義10時間
職業専門科目	職業実践科目群	神経障害系理学療法学実習Ⅱ	中枢神経系疾患の中でもパーキンソン病、多発性硬化症、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症などを中心に、各疾患の治療、評価、運動療法について理解し、実践できるようになることを目的とする。内容に関しては、理学療法における神経障害の評価・治療について学習する。各疾患特有の理学療法評価、および運動療法についてその理論的背景を学習するだけでなく、実習を通して実践できるよう学習を進める。神経難病においては、ターミナルケアを含めた理解が重要となるため、福祉用具、環境調整、チームアプローチや行政サービスなどの社会資源の利用についても理解する。 到達目標としては、基礎的な知識を習得した上で、必要な理学療法評価、治療に展開できる知識、技術を実践・説明できることを目標とする。	
職業専門科目	職業実践科目群	運動器障害系理学療法学実習Ⅰ	運動器障害の中でも、代表的な慢性疾患である変形性関節症、肩関節周囲炎、および代表的な高齢者の骨折である大腿骨頸部骨折、脊椎圧迫骨折などの理学療法について講義を交えながら実技も実施していく。これらの運動器障害の障害把握のために、各運動器の働きや疾患の特長、リスク管理などについて学び、これらの運動器疾患に対する基本的な理学療法プロセスを理解し、基本的な評価法や理学療法についての知識、技術を習得することを目標とする。	実習20時間 講義10時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	職業実践科目群	運動器障害系理学療法学実習Ⅱ	運動器障害の中でも、THA、TKA、ACL再建術などの術後の理学療法、関節リウマチ、末梢神経損傷、脊髄損傷などの理学療法について講義を交え多くの実技をする。これらの運動器障害の障害把握のために、各運動器の働き、疾患の特長、手術方法、リスク管理などについて学び、これらの運動器疾患に対する基本的な理学療法プロセスを理解し、評価法や理学療法についての知識、技術を習得することを目標とする。 (オムニバス方式／全15回) (⑱ 安田 孝志／5回) 末梢神経損傷、脊髄損傷などの術後の理学療法について講義を交え、基本的な評価法や理学療法を実践する。 (44 前川 昭次／5回) 前十字靭帯損傷・腱板断裂・THA・TKAに関する各術後の理学療法を学び、実際の手技を実践する。 (⑲ 大西 均／5回) 末梢神経障害では上肢と下肢の末梢神経絞扼部位の詳細を学び、実際にそれを開放する手技について実践する。	オムニバス方式 実習20時間 講義10時間
	職業実践科目群	内部障害系理学療法学実習Ⅰ	内部障害の呼吸循環器系疾患に対する、理学療法評価および理学療法治療について学習する。疾患の症状とその関連性などの基礎知識の理解、ならびに必要とされる理学療法評価方法と評価手技やデータ分析と解釈、理学療法の考え方と実技を習得する。呼吸循環機能の評価と治療手技は、学生同士のペアにより実習を取り入れ学習を進める。喀痰等の吸引について理論と方法およびリスク管理を学び、疑似モデルを対象に吸引の実習を行い技術を習得する。 (オムニバス方式／全15回) (③千住 秀明／11回) 内部障害の呼吸循環器系疾患の、臨床症状について学習する。呼吸器疾患の理学療法評価と治療の考え方について学習する。また、呼吸器疾患の理学療法評価と治療について学習し、その評価と治療について学生同士で実習を行い技術を習得する。 (45 平岩 康之／4回) 内部障害の循環器系疾患の、臨床症状と理学療法評価・技術について学習する。喀痰吸引について、理論と方法およびリスク管理を学び、疑似モデルを対象に吸引の実習を行い技術を習得する。	オムニバス方式 実習20時間 講義10時間
職業専門科目	職業実践科目群	内部障害系理学療法学実習Ⅱ	内部障害系疾患と生活習慣病の関係性について学習し、慢性的な内部障害を持ちながら高いQOLを維持した生活のための理学療法治療及び介入について学習する。また、糖尿病の合併症についても理解し、その予防ならびに理学療法にも理解を深める。さらに内部障害の症例を提示し、治療から生活に対する理学療法士の介入について、QOLも視野に入れたプログラム作成と他職種との連携についても学習する。その方法は、アクティブラーニングの視点からグループワークを行い実践的な学びを進める。 (オムニバス方式／全15回) (③ 千住 秀明／5回) 内部障害系疾患と生活習慣病の関係性について学習し、慢性的な内部障害を持ちながら高いQOLを維持した生活のための理学療法治療及び介入について学習し、症例を通して理学療法プログラムの作成を実践する。 (⑬ 弘部 重信／10回) 内部障害の症例を提示し理学療法介入について、発表やディスカッションを通して学習し、糖尿病患者の理学療法評価及び治療技術についても学習する。	実習20時間 講義10時間
	職業実践科目群	小児期理学療法学演習	小児期から成人までの発達について、基礎知識の理解を踏まえたうえ、発達を基盤にした理学療法の考え方を学び、理学療法評価と治療技術を習得することを目標とする。脳性麻痺を中心に正常発達のサポートと異常発達の抑制について、治療手技を学ぶ。さらに、幼児期、学童期、成人期と発達段階に応じた社会における理学療法士の関わりかたについて学習する。環境調整やADL指導について、症例を提示しグループワークを通して理解を深める。 (オムニバス方式／全15回) (46 白星 伸一／14回) 小児期から成人までの発達について、発達を基盤にした理学療法の考え方を学び、理学療法評価と治療について学習する。脳性麻痺を中心に正常発達のサポートと異常発達の抑制について、治療手技を学生同士で実習し学習する。 (⑧ 里中 綾子／1回) 環境調整やADL指導を含めた理学療法について、小児に特有な症例を提示しグループワークを通して理解を深める。	オムニバス方式 演習20時間 講義10時間
職業専門科目	職業実践科目群	老年期理学療法学演習	老年期の身体機能の変化や社会生活の特性について理解し、老年期症候群や廃用症候群など高齢者に発症しやすい症状や疾患に対する理学療法評価と治療についての技術を習得することを目標とする。また加齢に伴う心身機能の低下予防、機能維持に対する理学療法士の介入についても学習する。症例を提示し、施設利用者や在宅高齢者の介護ならびに介護予防も含めたアプローチについて、グループワークを通して議論しプログラム作成にいたるようアクティブラーニングを促す。	演習20時間 講義10時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	職業実践科目群	スポーツ障害系理学療法学実習	本授業では、スポーツ場面で発生しやすい 鼠径部痛症候群、半月板損傷、腸脛靱帯炎、鵁足炎、シンスプリント、足底腱膜炎、腰椎分離症などの理学療法について講義と実技を交えながら教授していく。股関節・鼠径部、膝、下腿・足部、腰、肩のスポーツ障害の障害把握のために、病態の捉え方、発生機転、発生メカニズムなどを理解し、各身体部位におけるスポーツ障害の基本的な評価法や理学療法の知識と技術を習得することを目標とする。また、その疾患のリスクについても理解し、日常生活指導やスポーツ動作指導を行えるようになることもこの授業の目標とする。	実習20時間 講義10時間
職業専門科目	職業実践科目群	神経筋骨格障害応用論実習	神経筋骨格障害のうち理学療法対象に対して、病院および診療所での最新の徒手理学療法について、それぞれの臨床の場において学習する。複数の施設において、経験豊富な実践力が高い理学療法士による実践的な実習を行う。具体的には、クリニカルクラークシップによる臨床実習を用い、患者の評価から治療までの一連の流れを経験し、さらに治療前後での変化について病態を踏まえた考察ができるようになることを目標とする。 (オムニバス方式／全45回) (⑭ 池谷 雅江／10回) 実習前のクリニカルリーズニングと臨床における評価と治療の一連の流れを指導する。 (⑯ 山内 正雄／10回) 臨床における評価と治療の一連の流れを指導する。主に下肢を担当。 (⑰ 宇於崎 孝／10回) 臨床における評価と治療の一連の流れを指導する。主に脊柱を担当。 (⑱ 大西 均／10回) 臨床における評価と治療の一連の流れを指導する。主に下肢と腰部を担当。 (④ /5回) 臨床における評価と治療の一連の流れを指導する。主に神経疾患を担当。	オムニバス方式 実習80時間 講義10時間
職業専門科目	職業実践科目群	内部障害応用論実習	近年増加している、内部障害系の理学療法対象に対して、チームによる支援と最新の理学療法について、それぞれの臨床の場を中心に学習する。施設実習と、実習前後にアクティブラーニングによる学習を入れることで、理学療法士の内部障害の実践的なリスク管理、および環境やQOLに考慮した理学療法について理解を深めることを目標とする。実習は、呼吸循環器疾患、ICU、CCU、高齢者を含む終末期医療の施設および地域のいずれかで、クリニカルクラークシップにて行い、グループワークにて互いの情報を共有し理解の幅を広げる。 (オムニバス方式／45回) (③ 千住 秀明／5回) 内部障害系の理学療法対象に対して、チームによる支援と最新の理学療法について、実践的なリスク管理や環境やQOLに考慮した理学療法を学習する。 (⑬ 弘部 重信／40回) 学内での内部障害を有する患者を対象に、グループワークとロールプレイにより臨床に近い理学療法を体感した上で、施設実習での経験を加えて実習後のセミナーで発表やディスカッションを通して広くかつ深く内部障害の理学療法について学習する。	オムニバス方式 実習80時間 講義10時間
職業専門科目	職業実践科目群	スポーツ障害応用論実習	本科目は最終学年時に行われる実習であり、学生が1～3年次に学習した態度・知識・技術を総動員して、将来スポーツ領域に関わる理学療法士としての資質を養う科目である。この科目で学んだ態度・知識・技術を融合して、アスリートのサポートだけではなく、子供から高齢者など全ての人を対象に、スポーツを活かして全ての人たちの健康増進に関わる理学療法士としての資質を養うことを目標とする。 (オムニバス方式／全45回) (⑰ 治郎丸 卓三／12回) 陸上競技を中心に、高校、大学、スポーツ団体でのスポーツ現場での実習を行う。 (⑪ 宇於崎 孝／11回) 水球、ハンドボール、ゴルフを中心に、国民体育大会の競技サポート場面での実習、また、滋賀県競技力向上対策本部の事業である選手サポート事業において実習を行う。 (⑮ 野口 真一／11回) サッカー、バスケットボールを中心に、高校やスポーツ団体でのスポーツ現場、また、滋賀県競技力向上対策本部の事業である選手サポート事業において実習を行う。 (⑩ 和智 道生／11回) 水泳やライフキネティックトレーニング、リズムトレーニングを中心に、企業やスポーツ団体において子供から高齢者までの各世代を対象にしたスポーツ現場での実習を行う。	オムニバス方式 実習80時間 講義10時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	職業実践科目群	地域理学療法学	生活環境とADLとQOLは密接な関係にあり、障がい者が社会復帰を目指すためには、環境が生活に及ぼす影響を理解する必要がある。本講では、環境について、地域環境と住環境の2つの視点から学ぶ。地域環境では、社会制度、地域環境と公共交通を通して人にやさしい街づくりについて理解する。その上で、生活環境の実態調査を行い、現状を理解する。生活環境（住環境）整備では、個人の生活環境の整備の在り方について取り上げ、社会モデルで障害を捉え、問題解決できる能力を養うことを目的とする。 （オムニバス方式／全8回） ⑥ 植田 昌治／4回） 地域環境では、街づくりの在り方、社会資源について学び、その上で、障がい者や高齢者が外出する際に生じている課題を正しく理解し、在宅復帰支援を行うために支援の在り方を学ぶ。 ⑫ 川崎 浩子／4回） 生活（住環境）整備では、自宅の評価のポイント、間取り図の書き方、住宅改修、福祉機器の導入を通して、身体機能面だけでなく、環境面も含めた評価を行い、障害や疾病を有する人が、健やかで円滑な生活ができるように、生活環境から生じる要因を多角的に捉え、当事者が最善の選択ができるように考え方の基礎を学ぶ。	オムニバス方式 講義13時間 演習2時間
	職業実践科目群	地域理学療法学実習	地域で生活する人々の生活上障害になる問題を解決し、生活機能向上に貢献する為に、「リハビリテーションの専門職として、地域医療を担う一員としての理学療法士の役割」について学び、理解を深めることを目標とする。サービスの場面ごとにリハビリテーション実施計画書（医療機関・老健・通所リハなど）の作成、説明と同意、地域連携パス、カンファレンス、サービス担当者会議など、理学療法士の実務を学び、役割の理解を深める。バリアフリー展や福祉用具センターにて福祉用具の選定と使い方を学び、最新の機器を体験するなど報告会を行う。また、理学療法士が専門性を発揮して主として関わる座位・臥位姿勢を取り上げ、評価・介入できる内容を理解する。これらのテーマを通して、課題解決に向け理学療法士の専門性を活かし、多職種と協働した取り組みができるようになることを目標とする。 （オムニバス方式／全15回） ⑭ 鈴木 美香／3回） サービスの場面ごとにリハビリテーション実施計画書（医療機関・老健・通所リハなど）の作成、説明と同意、地域連携パス、カンファレンス、サービス担当者会議など、理学療法士の実務について教授する。 ⑬ 弘部 重信・⑭ 鈴木 美香 共同／5回） バリアフリー展見学実習および実習報告会 ⑬ 弘部 重信／2回） 福祉用具の選定と使い方について、実技を通して教授する。 ⑥ 植田 昌治／5回） 座位・臥位姿勢の評価と適合技術について教授する。	オムニバス方式 一部共同 実習20時間 講義10時間
職業専門科目	職業実践科目群	理学療法見学実習Ⅰ	滋賀県を中心とした介護老人保健施設において、理学療法業務の見学および管理指導の下、対象者の方とコミュニケーションをとる。また、理学療法業務における周辺領域の補助、対象者の生活支援の一部の補助を行う。対象者や職員の方とコミュニケーションをとり、専門職としての適切な行動や言動を理解する。理学療法士の仕事を知り、施設の役割、施設における理学療法士の役割を理解する。理学療法士は地域で活躍の場が広がっているということを1年次に認識し、今後の学習意欲のさらなる向上を目標とする。	共同 実習40時間 講義5時間
職業専門科目	職業実践科目群	理学療法見学実習Ⅱ	滋賀県を中心とした医療機関において、理学療法業務の見学および管理指導の下、対象者と医療面接を行う。また、理学療法業務における周辺領域の補助を行う。理学療法士が行う評価と治療を見学し、評価方法の進め方と評価技術の重要性について理解する。医療機関における理学療法士の具体的な仕事内容を理解し、自己の目標を明確にし、医療従事者としてのコミュニケーションや基本的態度について認識することを目標とする。	共同 実習40時間 講義5時間
職業専門科目	職業実践科目群	理学療法見学実習Ⅲ	1年次の見学実習Ⅰでの自らの学び、指導者からの指導、学内での振り返りや再学習を踏まえ、再度見学実習Ⅰと同様の施設で実習を行う。滋賀県を中心とした介護老人保健施設において、理学療法士の業務の見学および管理指導の下、対象者の方とコミュニケーションをとる。また、理学療法業務における周辺領域を一部拡大し、補助の範囲を増やして行う。また、対称者の方の食事や入浴といった日常生活には欠かせない行為の生活支援の一部の補助を行う。適切な介助、援助をするために、必要な知識が何であるのかを自ら気づくことできる。また、1年次の学びを基盤に、理学療法士として役割を理解し、適切なコミュニケーションや行動がとれることを目標とする。	共同 実習40時間 講義5時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	職業実践科目群	理学療法評価実習	対象者の評価場面すべてにおいて指導者が見本を示したうえで、理学療法士が行う検査・測定を指導者の監視の下に一部実践する。これらの実践を記録し、日々の指導者からの指導・助言の下で自ら主体的にテーマを模索し、学習した内容をまとめる。診療参加型実習を行い、理学療法士としての基本的態度を学び、様々な場面での適切な行動をとることができる。また、これまでに学習した知識を臨床場面に結びつけ、患者の状態に関する評価を理学療法士の管理指導の下、リスク管理技術の水準Ⅰ（スタンダードプリコーション、バイタルサインの測定等）、理学療法評価技術の水準Ⅰ（情報収集、検査・測定、姿勢評価、日常生活活動等）の内容を実践することを目標とする。	共同 実習160時間 講義20時間
職業専門科目	職業実践科目群	理学療法総合臨床実習Ⅰ	評価・治療場面のすべてにおいて指導者が見本を示したうえで、学生自身がその一部を理学療法士が行う検査・測定や治療を指導者の監視の下に実践する。これらの実践を記録し、日々の指導者からの指導・助言の下で自ら主体的にテーマを模索し、学習した内容をまとめる。診療参加型実習を行い、理学療法評価を基に、患者の障害像の把握、治療目標及び治療計画の立案までの一連の思考過程を理解することができる。また、理学療法治療技術の水準Ⅰ（関節可動域運動、筋力増強運動、バランス練習、基本動作練習、歩行練習、移動動作練習等）の一部を実践することを目標とする。	共同 実習240時間 講義30時間
職業専門科目	職業実践科目群	理学療法総合臨床実習Ⅱ	評価・治療場面のすべてにおいて指導者が見本を示したうえで、学生自身がおおよそすべての理学療法士が行う検査・測定・治療を指導者の監視の下に実践する。これらの実践を記録し、日々の指導者からの指導・助言の下で自ら主体的にテーマを模索し、学習した内容をまとめる。診療参加型実習を行い、理学療法評価を基に、患者の障害像の把握、治療目標及び治療計画の立案、治療実践ならびに治療効果判定までの一連の理学療法プロセスを理解することができる。また、理学療法治療技術の水準Ⅰの項目をおおよそすべて実践することを目標とする。	共同 実習240時間 講義30時間
職業専門科目	職業実践科目群	理学療法地域実習	滋賀県を中心とした訪問リハビリテーション、および通所リハビリテーション施設において、理学療法士の介護保険分野における業務を見学し一部補助を行う。地域で生活を送る障がい者の現状を知り、介護保険分野における理学療法士の仕事についてだけでなく多職種との連携方法や多職種の業務についても理解を深めることを目標とする。	共同 実習40時間 講義5時間
展開科目		マーケティング論	マーケティングに関する基礎的な知識を学ぶだけでなく、商品戦略から事業戦略へ、さらに企業戦略へと拡大しているマーケティング活動に関する実践的で役立つマネジメント・ノウハウを習得することを目指す。伝統的なマーケティングの概念に加え、ソーシャルネットワークを用いたマーケティング、コンテンツマーケティングなどのトピックについても取り上げる。この授業の目的として、マーケティングの理論と実務について理解する。ケーススタディを通じて企業経営に対して関心を持つ、生活者トレンドや新製品情報など市場の動向に敏感に反応する力を養うこととする。	
展開科目		施設起業運営論	安定的な施設、企業の成長は、社員の仕事の幅を広げたり、働きがいを高めたりすることはもちろん、取引先との良好な関係を通じた新しい価値の提供、さらに地域社会への貢献と幅広い成果をもたらす。しかし、世間一般に、施設、企業運営は簡単ではないとされる。なぜなら、人間関係を構築していくことが難しいからである。人間関係は、些細なことですぐに壊れてしまう。それでは、安定的な施設、企業の成長のためには日々、どんな事を考えて、実践し、良好な人間関係を構築していけばよいのだろうか。この授業では、施設や企業運営における基本原則について学び、良好な人間関係を構築し、安定的な施設、企業へと成長させるのに重要な条件を学ぶことを目標とする。本授業は、講義形式で進めるが、できるだけアクティブ・ラーニングになるように進める。	
展開科目		ボランティア論	Volunteerとは「自発的な人」を意味し、自発的な意思に基づいて社会活動を行う者を指す。ボランティア活動は、社会的連帯感に基づく公共活動、市民活動であり、医療の中で行う支援とは異なる側面がある。外来講師には具体的なボランティア活動の実例とそこでの連携の諸問題（ボランティアと医療職）を取り上げてもらう。その実例を基に今後、医療人となる学生にはボランティアとの協業の課題、自分はどうに関わる事が出来るのか、その対策について考察することを目指す。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展 開 科 目	生涯スポーツ論	現代においてスポーツは、健康増進・余暇時間の活用・高齢者等の生きがいづくりといった、多様なニーズを持ってきている。現在、急激な自動化、高度情報化、高速化が進み、子どもから高齢者まで身体の不活動による生活習慣病や体力低下など、身体に様々な悪影響が生じてきている。スポーツを楽しみ、これらの生活習慣病を克服し、健康でいきいきとした生活を送るために生涯健康と生涯スポーツの獲得の重要性について概説し、これに加え、障がい者や高齢者のスポーツの効果と可能性からスポーツの価値や意味についても深めていくことを目的とする。	
展 開 科 目	労働衛生論	腰痛や肩こりに代表される作業関連性筋骨格系障害は、国民生活基礎調査結果や労働災害統計で示されているように最も発生頻度が高い疾患であり、その予防対策は、罹患者の苦痛だけでなく、労働力の確保や医療費抑制の観点から社会的に重要な課題となっている。理学療法士や作業療法士が備える専門性は、労働現場おいての作業関連性運動器障害の予防に力を発揮することができる。本教科では、法制度など労働衛生学の基本事項を理解するとともに、災害や作業関連性筋骨格系障害の予防のため展開されている産業保健活動の実際を学ぶことを通じて、理学療法士や作業療法士が職場の安全衛生活動に参加するために必要な知識やマネジメント手法の獲得を目標とする。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展 開 科 目	子育て支援論	どのような子どもであっても（障害の有無に関係なく）子どもとの向き合い方には共通点がある。子育てに於いて子ども側からの視点で前向きに育むペアレンティングの支援方法を紹介する。特に期待値・褒めて育てる・予防的に教える・問題が生じた際の対応、落ち着く方法等具体的事例をもとに理解する。この授業の目標は、障害の有無に関係なく、子育てに対する基本的なペアレンティングの支援方法を理解することである。具体的なほめ方、予防的な教え方、問題が生じた際の対応方法、感情の落ち着かせ方ができるようになることを目指す。	
展 開 科 目	災害支援論	災害時要援護者を中心とした被災者の生活支援を行う方法を学ぶ。救出・避難期における初期対応の技術や避難所の立ち上げから自立して生活を形作るまで段階に応じた支援について理解を深め、災害が生じた時のリハビリテーション職種としての支援について考えることを目標とする。内容としては、災害と災害支援、地域における災害支援、災害時要援護者支援、救出・避難期の緊急対応、避難所の立ち上げ・運営の方法、避難所生活期の支援方法、仮設住宅生活期の支援などを講義と演習を通して理解を深める。	講義10時間 演習5時間
展 開 科 目	教育支援論	社会の中で学校教育や学校教員の仕事や役割、また障害をもつ子どもに対して学校で取り組まれている教育支援や課題について理解を深め、リハビリテーション職種として学校教育支援を考えることを目的とする。 内容は、学校教育に関する制度・政策、教育の理念と思想、社会の中での学校教育の位置づけ、学校教員の仕事や役割、障害をもつ子どもへの教育支援の歴史、障害を持つ子どもへの通級学級・特別支援学級・特別支援学校での教育的取り組みと課題について学ぶ。	
展 開 科 目	メンタルヘルスマネジメント論	自らのストレスの状況や状態を適切に把握し、不調に早期に気づき、必要があれば他人に助けを求めることの重要性を理解する。また、管理監督者向けの内容も予定しており、部下への配慮の仕方、部下が不調に陥らないような安全配慮義務に則った対応を詳述する。 目標は、心の健康管理（メンタルヘルス・マネジメント）への取り組みの重要性を理解し、ストレスやその原因となる問題に対処する方法を理解する。また働く人のメンタルヘルス不調の未然防止に関する知識や対処方法を習得する。	
展 開 科 目	地域共生論	人が生涯を地域社会でつながりを持ち、住み慣れた地域で暮らしていくために、どのような環境やシステムが必要かについて理解することを目的とする。授業は、子どもや高齢者や障がい者など、世代や背景の異なる人々が社会の中で、どのように地域社会で暮らしているか現状について学習し、孤立せず地域の中でつながりを持つための課題について講義する。これらの理論をもとに、さらに学習を進めるために地域共生を实践している施設を見学し、障がいを持った子どもや高齢者の現状について見聞を広めるとともに、今後の課題を検討し対策についてグループワークを行い議論する。 （オムニバス方式／15回） （53 山本高行・54 山本ひろみ／8回） 障がいのあるこどもが、集団でのコミュニティを形成し、住み慣れた地域社会の中で生きていく力を育むための具体的な支援について概説する。また、学校の授業終了後や学校休業日に通う療育機能・居場所機能を備えたホースセラピーを導入している放課後等デイサービス施設にて、馬に乗ることや触れ合うこと、世話をすること、豊かな自然環境の中で自由に遊ぶこと等、屋外活動を見学し、地域共生社会に貢献するための必要な能力を自ら考えることを目的とする。 （27 渡邊和湖／7回） 障害のあるこどもが、生まれ育った町で、家族とともに育ち、学び、暮らすための実践方法を学ぶ。保育所等訪問支援事業、居宅訪問型児童発達支援事業における実践事例を通して、地域での生活場面への支援について自ら考えることを目的とする。	オムニバス方式 講義20時間 実習10時間
展 開 科 目	障がい者スポーツ論	障がい者のスポーツ活動に関する、歴史的な背景や文化を含め、障がいの理解、障がい者の理解を深めるために、歴史・思想、社会的・制度的観点、指導方法についての知識を習得することを目指す。全ての人間がスポーツという文化に親しみ、健康な心身を育てていくためのスポーツと社会の在り方について理論を学ぶ。また、実際に障がい者の競技スポーツを紹介し、その道具やルールの工夫、配慮事項について講義を行う。そして、地域の障がい者スポーツ指導者として活動できる知識を得る。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展 開 科 目	障がい者スポーツ論実習	健康の維持増進に寄与する障がい者のスポーツ指導について専門的な知識と技能を身につけることを目的とする。障がい者スポーツは、誰でも参加できるように適応されたスポーツであることを学び、可能性を追求する場とする。そして、学生自らが障がい者と健常者が交流できるスポーツ大会を企画し、運営することで、より高度な想像力、実践力を育むことを目標とする。 (オムニバス方式／全15回) (18 安田 孝志／7回) 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を障がい者を交えて演習を行う。 (14 池谷 雅江／7回) 全国障害者スポーツ大会の実施競技、障害区分について解説。また、競技の指導法と規則について障がい者を交えて演習を行う。 (19 大西 満／1回) 全国障害者スポーツ大会の理念を講義形式で解説。	オムニバス方式 実習20時間 講義10時間
展 開 科 目	スポーツリズムトレーニング論	この授業は、現代スポーツにおけるトレーニングの役割について理解を深めることを目標とする。具体的内容として、トレーニングの必要性、トレーニングの原則、トレーニングの種類と効果、トレーニング処方、トレーニング計画等、トレーニングの基礎理論について解説する。また、目標を実現するための実践的技法を確立することを目指す。中学校保健体育において、武道とダンスが必修科目となった。特にダンスは、参加意欲も高く、スポーツとして楽しみながら運動機能向上を達成できる現代的な運動種目である。ダンスの基本はリズム感であり、そのリズム感はずべてのスポーツの基本である。スポーツにおける、リズム感を自らも習得し、子どもから大人まで幅広い年代に指導できる能力を習得する。	講義10時間 演習5時間
展 開 科 目	体力測定論	健康的な心身機能を維持することは、小児期、青壮年期、高齢期を通して重要である。本授業では、人生の各ステージにおける身体機能の評価として、体力測定の意義について学び、測定方法や手順と、データ処理やデータの解析方法を身につけることを目標とする。項目は、形態計測や形態指数、身体機能と機能指数などである。これらについて、小児期、青壮年期、高齢期に相応した測定方法とその意義について学習し、年齢による違いについても学ぶ。また、グループワークによって各自が相互に測定を体験することで、測定技術を習得する。 (オムニバス方式／全8回) (5 分木 ひとみ／2回) 体力測定の意義とその種類について学び、測定データの処理や解析方法を学ぶ。また、年齢層に応じた測定方法の相違についても学習する。 (14 鈴木 美香／3回) 体力測定項目の測定方法について学び、実際の測定を体験する。 (14 池谷 雅江／3回) グループワークを通して、他者に体力測定を実施し測定技術を習得する。	オムニバス方式 講義10時間 演習5時間
展 開 科 目	健康増進実践演習	「健康」とは何か、「健康」の概念を学び、生涯を通じて豊かで活力ある生活を送るための理解を深める。健康な生活を維持するための運動、食事、睡眠、禁煙、飲酒等の個人の生活習慣の改善について理解を深め、日常生活での運動量の算出と体力測定、ゲーム活動等を体験し、体を動かし健康を維持する方法を学ぶ。健康教育の方法から運動プログラムの立案までの一連の過程が行えるように知識技術を修得することを目標とする。 (オムニバス方式／15回) (5 分木 ひとみ／6回) 小児から高齢者まで広く生涯を通した健康維持の概論ついて教授し、健康な生活習慣や、運動量の算出方法、さらに生活習慣病予防などへのつながりについて学習する。 (14 鈴木 美香／5回) 健康維持のための運動プログラムの立案について学び、個別の運動実践内容を学習するとともに体験し方法について学習する。 (14 池谷 雅江／4回) 二重課題やゲームなど、複合的な課題を用いたプログラムについて学習し、体験し方法について学習する。	オムニバス方式 講義10時間 演習20時間

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開 科目	健康増進実践実習	体力測定論で学んだ体力測定方法、ならびに健康増進実践演習で学んだ健康増進に関する知識を用い、若年者から高齢者まで幅広い年齢層に対応できる健康増進手法を実践できるよう、ケースを通してその介入方法等について知識を深める。また、実技、グループワークを通して、実際に体力測定を行い、健康生活習慣が維持できるようなプログラムの展開方法を学ぶ。演習を通じ地域住民の方にプログラムを企画、実践、運営することで実践力を養うことを目標とする。 (オムニバス方式／全15回) (⑤ 分木 ひとみ／5回) 東近江市よりゲストスピーカーを招聘し、東近江市の現状を紹介いただき、今後必要とされる取り組みについて学習する。 小児から高齢者まで、健康維持活動について紹介し体験することで実践内容について学習する。 (⑭ 鈴木 美香／4回) 仮想ケースを提示し、必要な体力測定と介入プログラムを計画し、グループワークにより模擬体験を実施する。 (⑭ 池谷 雅江／6回) 地域住民を対象にしたプログラムについて報告する。	オムニバス方式 実習20時間 講義10時間
展開 科目	パフォーマンス向上論	スポーツパフォーマンスを向上させるためには、スポーツパフォーマンスの構造を理解した上で、どのような事を、どのようなタイミングで実施するかが非常に重要になってくる。そして、現状の状態を評価した後に、必要なトレーニングを実践し、トレーニング後には再評価して、トレーニング効果の検討を行うといった、一連のプロセスを経ながらスポーツパフォーマンスを向上させていく必要がある。この授業での目標は、スポーツパフォーマンスの構造を理解した上で、スポーツパフォーマンスを向上させるための、運動能力の評価方法、およびトレーニング、ウォーミングアップとクーリングダウン、リカバリーの理論と方法を理解することである。	講義10時間 演習5時間
展開 科目	フィットネス論	この授業では、障害者や高齢者だけを対象とするのではなく、健康な子どもから高齢者も対象とし、すべての人の健康と体力の維持、増進のためのトレーニングについて学ぶ。この授業の到達目標は、学生自身が実際に各種運動機器を使って、機器の使用方法や特性を知り、自らが体感しながら、正しい運動指導ができるようになることである。また、正しいトレーニング方法や姿勢、動作指導により姿勢、動作の改善を図ることができ、すべての人に対して安全で効果的なトレーニングを指導できるようになることである。 (オムニバス方式／15回) (⑨ 佐藤 隆彦／5回) メディカルトレーニングセラピーの理論に基づき、対象者が自身の生活を快適に過ごすためや、健康維持・増進、体力増進、肥満改善、姿勢の改善のために行う行動や安全で効果的な運動を指導する方法論を学ぶ。さらに、スポーツ選手がトレーニング機器を使用し心肺機能や運動機能を強化する具体的方法論についても学ぶ。 (⑰ 治郎丸 卓三／5回) 姿勢、肢位や運動方法の違いにより活動する筋が変化するため、姿勢や動作を改善するためのトレーニングを行うためには、姿勢、肢位や運動方法を意識してトレーニングすることが非常に重要である。この授業では、姿勢、動作を改善するためには、どの筋をどのような姿勢、肢位や運動方法でトレーニングを行うべきか、また、どのような姿勢、動作指導を行うべきかを習得してもらう。 (⑲ 大西 均／5回) 整形外科的なスポーツ障害を予防する観点からは、トレーニング方法や予防的装具の使用法、捻挫や腰痛を起こさないための対策についても学習する。	オムニバス方式 講義20時間 演習10時間
展開 科目	ランニングトレーニング論	アスリートがランニングパフォーマンスレベルを向上させるためや、子供から高齢者までの幅広い世代の人たちがランニングを楽しむためには、怪我をしにくいランニングフォームで走る必要がある。この授業での目標は、怪我をしにくいランニングフォームをバイオメカニクスの観点から理解し、どのようなトレーニングをすれば、そのようなランニングフォームで走れるようになるかを理解することを目指す。また、短距離走、長距離走いずれにおいても、どのようなランニングフォームで走れば、速く走れるようになるのかについて学び、どのようなトレーニングを行えばそのようなランニングフォームで走れるようになるかを理解することもこの授業の目標とする。さらに、この授業では、ランニングパフォーマンス向上のためのトレーニングメニューの組み立て方についても学ぶ。講義だけではなく、実技も行い、走りの違いを実感してもらいながら進める。	講義20時間 演習10時間

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開 科目	ゴルフトレーニング論	ゴルフは数あるスポーツの中でも高齢になっても行うことができる数少ないスポーツだが、怪我をすることも少なくない。ゴルフスイングをバイオメカニクスの的に分析し、障害の予防ができるスイング指導ができるようになることが目標とする。 (オムニバス方式／全15回) ⑪ 宇於 崎孝／5回 ゴルフスイングの歴史的変化から、なぜ障害が発生するのかを解説する。さらに、バイオメカニクスの、機能解剖学的に効率の良いゴルフスイングとはどのようなスイングなのかを動画や演習にて理解させる。 (⑬ 安田 孝志／5回) ゴルフスイングをバイオメカニクスのに分析するための、ゴルフスイング理論を解説。ゴルフスイングの分析から障害の発生機序を推測しトレーニングの組み立て方法を解説する。 (58 奥村 竜也／5回) ゴルフスイングを含むゴルフに関する基本を学習する。また、ビデオ分析からゴルフスイングの修正方法を理解する。	オムニバス方式 講義20時間 演習10時間
展開 科目	ビジョントレーニング論	運動技能は、運動器（骨、筋肉）のみで構成されるものではなく、外界からの感覚入力により調節され、脳（神経）と運動器の協調したものとして表される。特に眼からの感覚入力は、人の全感覚の80%を占める。本講義では、スポーツ分野、精神障害の分野で実践されている、視覚と身体運動の協調したトレーニング法の理論と実践について学習し、その理論背景を理解することを目的としている。このトレーニングは、運動経験が少ない者でも実施可能で、精神的、身体的負担が少ない。軽度の運動であるにもかかわらず、感覚を刺激し、運動の調節と制御にまつわる脳内の情報処理速度を飛躍的に高めるトレーニングである。理学療法士にとって様々な対象にアプローチするための、応用的な技術となる科目である。	講義20時間 演習10時間
展開 科目	遊びとレクリレーション	人生において余暇活動は、高いQOLを維持する要因の一つであり非常に重要である。余暇活動の内容や価値観は多様性が高く、子どもから高齢者まで年齢層によっても変化する。本授業では余暇活動の人生における意義や、障がい者を含めたQOLと社会参加との関係性について、主に小児から高齢者までを通した遊びとレクリエーションの種類や内容を中心とした知識を身につけることを目標とする。この授業では、各人生のステージにおける遊びやレクリエーションの意義と、その現状について学ぶとともに、実践し経験することで自身の気持ちや体の変化を体験する。さらに、高齢者や障がい者の余暇活動の現状と、その支援の社会的な現状についても学習する。	
展開 科目	生きがい創造	超高齢化が進む中、一人ひとりが生きがいのある豊かな人生を過ごすためには、生涯にわたり学び続けることが求められている。高齢期のうつ病予防を目的に、ポジティブ心理学の立場から人生後半の生きがいづくりを支援する手法を学ぶことを目標とする。また、本授業では、演習として高齢者等に関わり、心理・身体的サポートを通じて、高齢者の抑うつ気分の低下、幸福感の向上等とともに、スタッフとして参加する学生のキャリア意識の形成も目的とする。	講義20時間 演習10時間
展開 科目	伝承遊び	昔ながらの遊びの中には、年齢、体力レベルに関わらず、すべての人が簡単に、楽しく笑いながら実践できるものがある。からだを動かし楽しく遊び、できなかったことができるようになる体験をすることで、脳内血流量が増加し、神経伝達物質の放出量が増え、脳機能の向上と神経伝達物質機能の強化を促すことができる。したがって、このような遊びを行うことは、子供の創造力や集中力の向上、アスリートのパフォーマンス向上、勤労者のストレス解消やメンタルケア、そして、中高齢者の注意力、理解力の向上などの効果が期待できることがわかってきている。そこで、本授業では、昔ながらの遊びについて再注目し、これらの遊びが脳に与える影響について学び、あらゆる世代の人たちに昔ながらの遊びを提供できるようになることを目標とする。講義だけではなく、実技も行い、脳の変化を実感してもらいながら進める。	講義20時間 演習10時間
展開 科目	シューフィッティング論	現在の日本におけるウォーキング、ランニング人口は右肩上がりの上昇を見せており、それに伴って様々なメーカーから選びきれないほどの種類のシューズが展開されている。ウォーキングやランニングというと、シューズさえあれば始められる手軽なスポーツと思われがちであるが、足の形やウォーキング、ランニングスタイルやフォームに合わせて、適切なシューズを選ばなければ思わぬトラブルや怪我につながってしまう。したがって、正しいシューズの選び方を理解して、適切なシューズを見つけることが重要となる。本授業では、ウォーキング、ランニングの基礎について学び、足の形やウォーキング、ランニングスタイルやフォームの違いから、シューズの正しい選び方を学ぶことを目標とする。講義だけではなく、実技も行い、シューズの違いがウォーキングやランニングを変化させることを実感してもらう。	講義10時間 演習5時間

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開 科目	福祉工学地域活用論	高齢化社会の中で福祉工学分野に期待される要望も大きく変化してきた。「やりがい」や「生活の質」が求められる中、福祉の分野において機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。本授業の目標として、1：福祉工学の基本理念を理解する、2：様々な技術の基本原理と最新の状況を理解する、3：将来、様々な障害に対応できる福祉工学に関する知識を身につける。福祉工学を学ぶ上で必要な社会状況の把握と、基本的な生理学、それに基づいた生体計測、関連する画像信号処理、治療工学などに関して講義を中心にやっていく。	
展開 科目	ロボット工学地域活用論基礎	ロボット工学は幅広い分野に応用されている。本授業では産業用ロボットに焦点を当て、ロボット工学分野における運動学、ロボットにおける運動解析とその制御の基本的な知識について講義する。本授業の目標として、マニピュレータの運動機能を理解し、関節の運動と手先の運動を関連付けることができる。 (オムニバス方式／8回) (62 谷田 惣亮／4回) ロボットに関する基本的用語を理解する。動作解析方法を理解し、各種センサやその原理について理解する。 (63 小澤 拓也／4回) ロボット制御に必要なマニピュレータ、アクチュエータとセンサの原理を理解し、制御系の構成を理解、表現できることを目標とする。	オムニバス方式
展開 科目	ロボット工学地域活用論応用	本授業では、グループワーク演習、学外研修を通じて医療・福祉分野における機器・ロボット技術の活用について学ぶ。本授業の目標は、医療・福祉分野におけるロボット技術を応用する際に重要なポイントを理解すること。医療・福祉分野における問題とロボット技術との関係を学び、今後必要とされる福祉機器へのロボット技術の応用について考えることである。 (オムニバス方式／全15回) (62 谷田 惣亮・⑱ 安田 孝志／7回) (共同) 下肢機能の代用、運動支援、リハビリテーション、移動支援に関連するロボット技術について学習する。二足歩行、電動車いすなど最新の医療・福祉分野におけるロボット技術の応用について学習する。 (63 小澤 拓也／8回) 上肢機能の代用、リハビリテーション、生活行為支援、環境制御を含めたロボット技術の応用について学習する。運動訓練装置から上肢支援ロボットの最先端技術とその応用について学習する。	オムニバス方式・ 共同 講義20時間 演習10時間
展開 科目	身体障がい者就労環境論	人は一生を通じて、様々な段階で心身の機能に障害をきたす。治療等により機能を回復する場合もあれば、身心の機能障害が持続したり進行する場合もある。加齢も心身の機能低下の原因となる。2001年にWHOが採択した「国際生活機能分類 (ICF:International Classification Functioning, Disability and Health)」では、身心の機能に障害があったとしても、環境の改善や社会制度の整備を通じて、活動の制限や社会参加に関する制約を最小化する概念を提示した。我が国でも、以後、「障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重しあいながら共生する社会の実現」が追求され、企業での障害者雇用が義務付けられたり、新たな法制度の制定により様々な社会場面での障害者差別の解消が図られている。本教科では、①身体障害を中心に障害特性を理解する。②成人障害者の二次障害の発生実態とその発生要因を理解する。③良好な成果が得られた障害者の就労環境改善事例から、障害者の就労環境の改善に至るアプローチを学び、模擬改善計画が作成できる。ことを目標とする。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開 科目	組織運営論	企業や学校、身近なところではサークルや部活など、私たちは常に組織に関わり、また、組織のなかで生活をしている。授業では、組織について、組織と個人について、組織運営についての基本的な考え方を学習し、概念的な理解と同時に、実践的な思考を習得することを目的とする。また、社会福祉施設における福祉サービスの事業主体である社会福祉法人など、組織と運営の理念や使命、内容等について学習するとともに、組織のあるべき姿について理解する。さらに、組織における人材確保と育成の意義や必要性、情報の管理や開示についても学習する。 さまざまな組織の体系を理解し、その上で組織の運営方法について、理論をさらに深めるために実際の施設運営を見学し、その体験をもとに自ら考え、そしてその考えをグループで検討し共有することで、組織で働くことの意味や、自分に合った働き方を自ら考えられるようになること、また自身が組織のリーダーになった際、どのようにメンバーとの関係を構築し、維持・発展させれば良いのかが分かるようになることを目的とする。 (オムニバス方式／15回) (25) 家村薫／8回) 組織運営についての基本的な考え方を示し、多職種と連携し、利用者の方が家庭的な雰囲気運動や机上での活動を過ごす地域密着型通所介護における組織運営の実践例を通して、その方法を学び自ら考え行動できるよう学修する。 (26) 柴田恵子 / 7回) 地域包括ケアステーションにおいて、さまざまな職種が医療的ケアの必要な子どもから大人までが、ゆっくり穏やかに過ごせる場所を提供するための組織作りから管理運営までの実践例を通して、その方法を学び自ら考え行動できるよう学修する。	オムニバス方式
総合 科目	協働連携論総合実習	リハビリテーションの分野で共通する症状、障害を有した地域在住の障害者に対して、職種間連携を通してリハビリテーションアプローチの実際について討議・学習する。地域で働く理学療法・作業療法などの専門職業務の理解をしながら、各専門職が考える地域在住の障害者に関する問題点・アプローチ方法を検討・発表し、リハビリテーションチームとしてのゴール設定とアプローチ方法の検討・発表を行う。内容は、実際に地域で生活されている障害者の講演を通して、各職種の専門性をもとに、地域共生社会の実現に向けた解決策を検討・提案する。	共同 同時に授業を行う 学生数：120人 教育上必要な理由は、3年間で学んだ多職種連携をシミュレーションするため両学科混合で行うことで、教育効果が期待できる。なお、授業には4名の教員が入り指導するため、教育上支障はない。
総合 科目	理学療法総合実習	本科目では、展開科目で学んだことと、職業専門科目や各実習などから得た知識や経験に基づいて、地域共生社会の実現に向けて、地域社会が抱える課題にはどのようなものがあるのかを検討し、その課題に対してどのようなアプローチがなされ、どのような効果を得ているのかについて情報を整理する。そして、整理した情報に基づき、地域が抱える固有の課題を発見し、地域共生社会の実現のために、どのようなことを調査・研究していく必要があるのかについて、ディスカッションを通して、調査・研究計画を立案していく。さらに、調査・研究結果を発表するとともに、得られた結果から、展開科目や職業専門科目で学んだことを応用・展開させ、地域課題を解決するためのプロジェクトについても企画する。	共同
総合 科目	リハビリテーション総合演習	本科目は、展開科目、職業専門科目で履修した内容を交えて、学生自身が自ら疑問を解決できるよう研究手法について学び、その過程が理解できることを目的とする。授業は、少人数のゼミ形式で行い、講義では研究の手法や研究計画の立案について学修する。さらに、実際に実験を行い、得られたデータを分析し、その結果からどのように考察するかを考えていく研究プロセスを学ぶ。実際に行った研究は、発表会を通じてさらに考察を深める。この授業では、理学療法総合演習で行う地域課題への課題発見と解決方法を学ぶ素地として論理的思考能力を向上させることを目標とする。	共同 演習20時間 講義10時間

授 業 科 目 の 概 要				
(リハビリテーション学部 作業療法学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	初年次教育科目	学びの基盤	専門職大学での「学び」を考え、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得することを目的とする。各学科の教育内容を理解するとともに、大学で自律的に学ぶことの大切さ、その方法を学ぶ中で、4年間の学習過程に見通しをつけ、基本的な学び方（課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レジュメやレポートの記述、プレゼンテーション等の発表、ディスカッション等）を習得する。「授業のテーマ」「授業の概要」「授業の目的・ねらい」を踏まえ、どのように予習復習していくのかを学習する。到達目標としては、①大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、学ぶ道筋を立てることができる。②自身の力で課題に応じた情報や文献を検索することができる。③情報や文献を読解して内容を要約することができる。④構成を意識したレジュメやレポートを作成することができる。	
	初年次教育科目	コミュニケーション論	コミュニケーションの基本概念と構造、非言語的コミュニケーション、言語的コミュニケーション、社会的相互作用等コミュニケーションについて深く理解するとともに、自己のコミュニケーション能力について洞察を深める。加えて、社会的役割と役割行動、コミュニケーション能力の自己評価を踏まえ、臨床の場における活用や意味について理解を深めていく。社会人に求められるより良いコミュニケーション、より良い人間関係を自ら作り上げることができることを目標とする。	
	人間と社会系科目	音楽	作業療法の治療を実施するためには、作業療法評価が重要であることを学び、疾患の分野を超え、作業療法における評価の流れや評価の重要性について理解を深める。また、作業療法評価を治療計画に関連付けるだけでなく、作業療法実施の効果判定やリスク管理としての使い方なども理解することを目標とする。講義内容としては、作業療法評価の目的と意義、評価の過程、評価各分野で必要となる面接・観察、形態測定、意識の評価、バイタルサインの測定の基本的知識を学習する。	
	人間と社会系科目	キャリア発達論	高度化する医療技術や、日々新たな発見がなされる知見など高度化が予想される今後の医療業界の中で、生涯にわたるキャリア発達とその支援に関する理論と実践について解説する。人間形成についての理解、リーダーシップとは、また専門職、研究職としてキャリア発達への理解を深め、受講生自身のキャリア発達に繋がるよう授業を展開する。キャリア発達とその支援についての理論と実践について学習し、自身のキャリア発達「働くこと」「生きること」について将来への展望を持ち、「キャリア設計」を考え、実践していく力を身に付けることを目的とする。個人ワーク・グループワークを行うことで諸理論への理解を深めるとともに、実践力を高めていく。到達目標として、①キャリア発達の諸理論を理解し、広い視点で自身のキャリアを考えられるようになる。②社会的・職業的自立に必要な能力を理解し、自身のキャリア開発課題を明確化できるようになる。	
	人間と社会系科目	教育学	日本の教育や歴史的背景による社会における子供の位置づけを、文化や経済などと関連づけながら幅広い視点から理解することを目標とする。現代の教育が抱えている諸課題を歴史的視点にたって考察していく能力を養う。近代日本における教育の形成とその問題点を考察する。近代日本の教育を検討し、そのことを通して、現代の教育が抱えている諸問題を追究する。また、子どもたちが健やかに成長するにはどう導いていくべきなのか、過去の事例・事象なども検証する。さらに、学校だけでなく、家庭内での教育や社会人の人材教育などにも触れる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	人間と社会系科目	倫理学入門	倫理学の基本的な考え方を、講義、課題演習および思考実験を通して学ぶ。人間のあり方、生き方、社会のあり方を、学生のときに学習し、思想史の知識をさらに深めながら考えていく。さらに倫理思想の様々な倫理的問題と、それに対する多様なアプローチの特徴を理解し、その現代的意義を学習する。現代文明が抱える様々な倫理的課題を理解した上で、それについて思考するために伝統的倫理思想の理解と吟味が不可欠であることを確認する。	
基礎科目	人間と社会系科目	哲学入門	哲学の本質を初級者向けに解説しながら、哲学史の流れに沿って哲学の概論を講義する。西洋哲学以外の学問分野との関連づけもはかりながら古代ギリシア以来の哲学思想を西洋哲学史の流れに沿って近代の入り口まで紹介し、自分が既に習得しているさまざまな知識とうまく関係づけながら、哲学の歴史と基本用語を習得することを目標とする。それにより、最終的に、履修者自らが自分自身の世界観、人生観を構築する手掛かりを得られるようになることを目指す。	
基礎科目	人間と社会系科目	心理学	心理学は人の心の動きやそこから生じる行動について探求しようとする領域である。その領域は多岐にわたり、発達心理学、認知心理学、知覚心理学、臨床心理学、異常心理学、社会心理学など幅広い。本講義では、心理学の中でも人の理解につながる領域の基礎を学ぶ。知能の構造、知能の発達、性格の形成、人の欲求、適応と不適応行動、行動の展開、感情、記憶等人の理解につながる基礎を学び、人間の行動を科学的に観察する視点を養う。	
基礎科目	人間と社会系科目	経営学入門	国内外における経営学の基本的な論点と専門用語、また主要な概念を学び、現実の経営における現象・問題について考える能力を身につけることを目標とする。経営学の対象は営利企業に限定されず、医療機関等の非営利組織を包含する。本講義では、営利・非営利組織に共通して求められる、組織や人材マネジメント、経営戦略、事業戦略、新規事業開発におけるマーケティングなどについて理解する。特に保健・医療・福祉に関する経営について関心を持ち、今後、医療・看護の対象となる人々を理解するための一つの視点として、経営学的視点を持てるようになることを目的とする。	
基礎科目	人間と社会系科目	社会学	社会学の基本概念のいくつかを学習することを通して、「社会学という学問」の考え方に触れ、社会現象を理論的に把握するとはどういうことかを考える。社会学における基礎的な概念を、現実的な問題と関連付けながら理解する。それを通して、社会的な視点を身につけることを目的とする。社会的な視点を通して私たちは当たり前に来てきた社会を少し疑問をもって考えることができ、その疑問を通して得た考察から新たな支援や行動が生まれてくるのである。地域で生活を支援する職種にとってはなくてはならない視点である。この講義では、差別や偏見、ひきこもりなど様々な社会での出来事を社会学視点を通して学び、議論を行う。そして、医療従事者としてより深く社会を理解し、行動できる視点を身につけることを目標とする。	
基礎科目	人間と社会系科目	日本の伝統文化	【授業概要】 日本の職人は単に生計活動を営むだけでなく、さまざまなイメージをともなう存在です。「職人」という言葉には熟練や生き方といった意味も込められています。本授業では日本の職人の歴史を通して、現代日本の職人文化について学びます。その際、具体的な職人の事例として、とくに近江（滋賀県）とゆかりの深い、木地屋（木地師）と鋳物師を取りあげます。なお、授業では、職人を題材とした絵画資料や映像作品の視聴をとおして、できるだけビジュアルに進めます。 【到達目標】 (1) 日本の職人の特質について理解する。 (2) 日本の職人のイメージと実態について理解する。 (3) 日本の職人をめぐる同時代的な社会背景について理解する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	人間と社会系科目	日本の近代史	この授業では、明治維新から現代に至るまで、日本の近代史・現代史の基本的な流れを、国家と地域社会の関係から概観する。私たちが生活する現代の日本と諸外国について正しく理解するためには、現状分析とともに歴史的な考察が必要不可欠である。特に、明治維新以降の近代史と、それに続く現代史は重要である。この講義では、中央集権化が指摘されることの多い日本において、国家と地域社会がいかなる関係にあったのか、特に地域社会の実態とそこからの視点を重視して考え、歴史を参考にして現代の国家、地域社会について深く考えられる力を身につけることを目標とする。	
基礎科目	人間と社会系科目	体育	この授業では、体育活動（身体運動）を通じて学生の健康的な生活実現のために必要な最大限の身体的、精神的、かつ社会的発達を助成、涵養することを目指す。また、医療人として、また理学療法士、作業療法士としての教育を受ける中で、人間の運動の仕組みや身体の運動耐用能などを体育活動を通して学ぶ機会とする。様々なスポーツについて実践する機会を与えることにより、将来のリハビリテーション職の基礎となる、身体を動かすとは何か、運動の限界とは何かを体感する時間を提供する。また、この授業では、体育活動を通してチームワークの形成から、コミュニケーション能力を身につけてもらうことも目標とする。	
基礎科目	自然科学系科目	生物学	生物学は私達の生活と社会に密接に関わってくるサイエンスである。そのため、生物学の基本的な概念について学び、理解することは、私達の生活と社会をより良くしていくためには必要不可欠な事柄である。この授業では、生物の動物性機能について理解し、説明できるようになることが主要な目標である。また、生物の高次機能や医学に関連した話題も取り上げて、生物学を学ぶ社会的な意義を考えるきっかけとなることを付随的な目標とする。	
基礎科目	自然科学系科目	物理学 I	物理学の基礎的なものの見方や理解の方法を身につけることを目的とする。身体運動に関与する力は、重力、外力、筋収縮にて発生する張力、摩擦力等である。筋と関節の構造は機械系のテコ構造に類似し、関わる力は力学的分析で説明される。生体の姿勢や運動を理解するためにニュートン力学を学ぶ。また、治療に用いられる温熱療法、電気療法、水治療法等を理解するための基礎となる熱の作用、流体力学、電気と磁気等の基礎を学ぶ。	
基礎科目	自然科学系科目	物理学 II	物理学 I で学んだ、物理学の基礎的なものの見方や理解の方法をもとに、熱力学、電磁気学、波・波動などのより広い物理現象を対象として、医療の技術や医学を学ぶための物理的基礎のより広い習得を目指す。その中で、電子機器の発展に深くかかわってきた、物質の状態や、熱や光とのかかわりに関する理解を深める上で必要となる、物理・化学の基礎を学習する。さらに物理学の研究成果を工学技術等に応用された事例なども学び、より実用的な物理学を学ぶ。	
基礎科目	自然科学系科目	統計学	いままで確率や統計を詳しく習うことのなかった学生も多いため、確率・統計の基礎から推定・検定の考え方を、実例を交えながら講義し、研究結果を解釈するために必要な統計学知識を持つことを目標とする。確率や初等統計の基礎から学び、統計データを適確に処理できること、また得られた結果を正確に理解、解釈するために必要な知識を学ぶ。また、実際に行われた研究を題材に、統計学的な具体的手法についても代表的なものを学ぶ。	
基礎科目	自然科学系科目	数学	基礎的な数学の内容の理解が目標であるが、具体的には式の計算、三角関数、指数関数、微分、微分の応用として関数のグラフの描画、積分の意味、ベクトル、統計のための確率の基礎を学習し、応用できるようになる事を目標とする。高校で学んだ数学を基礎に、微積分、ベクトル、離散数学（順列、組合せ、確率）についても講義する。これらをもとに、数学を応用し経済学や、数理統計学、人文科学といった応用数学にも触れ、自らが主体的に数学に触れ学ぶことを重視する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	語学教育科目	英語Ⅰ	大学の英語教育を通して「グローバル」とは何であるのかを今の自分たちの生活と将来の生活（仕事を含め）中でどう活かして行けるかを学習する。テキストでは多文化理解教育を様々なケースで読解し、また臨場感を持たせるビデオ教材を活用しながら基礎的な読解力とリスニング力を中心に学ぶ機会を与える。語学の授業は、聞いているだけでは理解できないし、上達しない。大学での英語教育の到達目標はインプットしたものをどうアウトプットするかを学ぶためグループワークやクラスへのフィードバックを通してインプットとアウトプットの大切さを知る。	
基礎科目	語学教育科目	英語Ⅱ	グローバル社会、グローバルizm、グローバル化という広く一般に使われている言葉の意味を学ぶために、また、基礎的な英語4技能の向上と幅広い知識の習得のために、テキストを利用しながら様々なケースについて知識を得るとともに、臨場感を持たせるビデオ教材を活用しながら、実践的に学ぶ機会を提供する。 日常的に接する「読み、書き、リスニング、スピーキング」に気づかせる教材を利用し、基礎的文法、構文、語彙、慣用表現を復習・認識させながら、「読み、書き、リスニング、スピーキング」を職場を含む社会生活で実践できるようになるための基礎的な英語力を修得する。	
基礎科目	語学教育科目	韓国語	授業では、ハングルの読み書き、発音変化、文章構成、辞書の使い方など、韓国語学習のための基礎を学ぶ。学生が日本語や英語等すでに習得している言語と比較しながら、可能なかぎり韓国語の文法規則を自ら見いだせるよう、単文の構造、品詞の形等を提示する。韓国語の基本的な構造を踏まえながら、日常会話を学習する。また、韓国の歴史、社会、文化などを理解することを目標とする。韓国語の特徴を理解するとともに、言語普遍性の観点から日本語との比較し、韓国語の基本構造と韓国文化を学習することで、外国語、外国文化への理解を深める。	
基礎科目	語学教育科目	中国語	発音の基本、人称代名詞、指示代名詞、疑問詞、動詞の文、助数詞、形容詞の文など、問題練習を通して学習事項の定着を図るとともに、視聴覚資料を使って、中国や中国文化に関する理解を深める。授業では、中国語であいさつと簡単な日常生活ができるようになり、かつ、中国語の基礎文法を身につけ、簡単な中国語の文章が読めるようになることを目標とする。標準的な中国語の発音をしっかりと身につけると同時に、中国語基礎文法を学ぶ。また、実用性の高い日常会話を発音練習と文法習得の中に取り入れ、中国語の応用能力を高める。	
職業専門科目	作業療法理論科目群	解剖学Ⅰ	解剖学Ⅰでは、人体を構成する細胞、組織、器官が階層性を持っていることを理解した上で、骨学、関節学、筋学についての基礎的な知識を習得する。そしてそれらの知識を統合し、身体の運動を説明できることが目標となる。内容は、人体の解剖学用語や人体の構成と発生などの解剖学総論、骨学総論から頭蓋・脊柱・胸郭・上肢・下肢の骨学各論、関節学総論から各関節の構造と運動方向、筋学総論から各骨格筋の部位・起始・停止・支配神経・作用について学習する。さらに応用として、日常生活の基本的動作を解剖用語で説明できることが望ましい。また人体解剖実習を通して実習の倫理的側面を理解する。	
職業専門科目	作業療法理論科目群	解剖学Ⅱ	解剖学Ⅱの授業目標は中枢神経系および末梢神経系について理解を深めることである。神経系が中枢神経と末梢神経で構成されていることを理解し、運動を、中枢神経からの指令が末梢神経に伝わり、筋の収縮、関節の動きまでの一連の流れとして説明できる。また知覚を、感覚受容器で捉えられた刺激が、末梢神経を通して中枢神経へ伝えられ、認識されるまでの一連の流れとして説明できる。さらに脳や脊髄の障害が運動や感覚の異常とどのようにつながるかを説明できるようになること。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	作業療法理論科目群	解剖学Ⅲ	解剖学Ⅲでは、各内臓、および感覚器についての基本的な知識を習得することが目標となる。内容は消化器（胃、膵臓、肝臓、腎臓、脾臓、膀胱、小腸、大腸など）、呼吸器（気道、気管支、肺、胸郭、横隔膜など）、循環器（動脈、静脈、心臓、脳循環、門脈系など内臓、胎児循環）、免疫系（リンパ系）、内分泌系（下垂体、松果体、甲状腺、副腎など）、感覚器（皮膚、視覚器、聴覚器など）、生殖器の各構造と基本的機能を説明できることが目標となる。	
職業専門科目	作業療法理論科目群	生理学Ⅰ	医療の現場で問題に直面した際に、専門職として正しい判断をするための基盤となる人体機能についての基礎知識を習得する。本講義では、血液、循環、呼吸、内分泌、生殖、消化・吸収、腎機能などの生理機能系の仕組みとその働きについて学ぶ。毎回の授業で提示される課題について各自で検索・考察することによって人体機能についての理解を深め、チーム医療の一員として必要な素養を身につけることを目標とする。	
職業専門科目	作業療法理論科目群	生理学Ⅱ	医療の現場で問題に直面した際に、専門職として正しい判断をするための基盤となる人体機能についての基礎知識を習得する。本講義では、ニューロン機能、感覚機能（平衡感覚、聴覚、体性感覚、視覚、味覚、嗅覚）、運動機能（筋収縮、脊髄、大脳皮質運動野、伝導路、脳幹、大脳基底核、小脳）、自律神経機能、高次脳機能などの生理学的仕組みとその働きについて学ぶ。毎回の授業で提示される課題について各自で検索・考察することによって人体機能についての理解を深め、チーム医療の一員として必要な生理学の素養を身につけることを目標とする。	
職業専門科目	作業療法理論科目群	運動学Ⅰ	作業療法士が生活行為遂行の困難さをその運動のしくみから把握することは重要なことである。本科目は、正常な人の動きについて各関節や体の動きから理解することを目的として、主に上肢の主動作筋と関節運動の関係を整理しながら運動の特徴を学習する。第1～7回で身体各部の名称や面と軸、運動方向、重心、関節の形状分類や筋収縮について学び、第8回以降は、上肢を構成する肩複合体や肘、前腕、手関節、手指について構造と運動について学習し上肢の運動の理解を深めることを目標とする。	
職業専門科目	作業療法理論科目群	運動学Ⅱ	作業療法士が生活行為遂行の困難さをその運動のしくみから把握することは重要なことである。本科目は、正常な人の動きについて各関節や体の動きから理解することを目的として、主に体幹と下肢の主動作筋と関節運動の関係を整理しながら運動の特徴を学習する。第1～8回で下肢を構成する骨盤と股関節、膝関節、足部について構造と運動について学び、9回以降は頭部、頸部、脊柱の構造と運動について学習し理解を深めることを目標とする。授業では、教員や学生がモデルになり、実際の動きを見て、確認して、理解を深めるようにする。	
職業専門科目	作業療法理論科目群	運動学実習	授業目標は、人の身体運動と力などバイオメカニクスに関する知識を学び、正常な姿勢や運動を観察し、運動学的視点から運動分析を理解することである。内容としては、姿勢観察と分析、姿勢の評価、肩甲骨・上肢の観察と分析、骨盤・下肢の観察と分析、寝返り起き上がりの運動観察と分析、立ち上がりの運動観察と分析、歩行の運動観察と分析、姿勢や歩行に見られる異常姿勢と運動分析について学習する。小グループに分かれて、実際の動作を体験しながら、分析を進めさせる。学生同士の意見交換をさせることで、多様な分析視点を学ばせる。	実習20時間 講義10時間

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	作業療法理論科目群	人間発達学	ライフステージに合わせたリハビリテーションを行うために、人の成長や発達の視点は重要である。本講義は誕生から老年までの全生涯を通して、人間がどのようにして発達していくのか、またどのような要因が発達に影響するのかを理解することを目的とする。人間発達を理解する上で重要となる理論背景について学習し、また人間の発達を、胎児期から乳幼児期、成人期といったライフステージにそって、形態・機能的側面、さらには認知的および情緒・社会的側面から学習し総合的に人間の発達に対する理解を深める。	
職業専門科目	作業療法理論科目群	救急援助論	医療職にとって、救急患者への対応、特に救急の初期対応は必ず身につけておくべき知識・技術である。この講義では、救急対応が必要な患者の徴候、原因疾患、救急初期対応に関する知識・技術を習得することを目標とする。特に医療職にとって必須の知識・技術である一次救命救急処置が実践できることを目標とする。	講義13時間 実習2時間
職業専門科目	作業療法理論科目群	内科学Ⅰ	内科疾患の基本知識は医療に携わるにあたっては必要なことであり、授業目標は内科の診断法、検査、循環器・呼吸器・消化器といった主要な疾患について知識を修得することである。内容としては、診断法、身体診察、バイタルサインなどの診断学、循環器・呼吸器・消化器などの主要症候とその検査、遺伝子異常・染色体異常・老化・腫瘍などの病態、呼吸器疾患の症候と診断、循環器疾患の症候と診断、消化器疾患の症候と診断などについて学習する。	
職業専門科目	作業療法理論科目群	内科学Ⅱ	授業目標は、医療現場で常に注意が必要な感染症、基礎疾患として多くの人が罹患している代謝疾患、内分泌疾患、血液造血器疾患、腎泌尿器系疾患、免疫疾患、生活習慣病など内科疾患について知識を修得することである。内容としては、感染症の病原体と感染経路、感染対策と予防策、細菌感染症やウイルス感染症など感染症、糖尿病や脂質異常症などの代謝疾患、下垂体・甲状腺疾患などの内分泌疾患、各種血液疾患、腎不全などの泌尿器系疾患、免疫不全や自己免疫疾患などの免疫疾患といった各疾患の原因、病態、診断と治療と予後について学習する。	
職業専門科目	作業療法理論科目群	神経内科学Ⅰ	授業目標は、神経内科疾患の中でも神経難病を中心に、その病態と治療などについて理解することである。内容としては、神経症候学の概要や主要な神経疾患であるパーキンソン病、多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症などの神経疾患、筋ジストロフィーなどの筋疾患などリハビリテーションの対象となることの多い神経難病について、病態、病理、症状、治療、予後等について学習する。これらの病態と治療を理解することで各疾患の予後を視野に入れたリハビリテーションにおける知識の基盤を作ることを目的としている。	
職業専門科目	作業療法理論科目群	神経内科学Ⅱ	授業目標は、脳神経疾患とその治療について理解することである。具体的には、脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷、中枢神経系の奇形、水頭症、脊髄疾患、脊椎腫瘍などのリハビリテーションの対象となることの多い疾患について、診断と治療法の概要やその経過について学習する。各中枢神経系疾患の病態から内科的・外科的治療に至るまでの内容を理解することで、リハビリテーションの実施に必要な基礎知識を固めていくことを目的としている。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	作業療法理論科目群	整形外科学Ⅰ	授業目標は、リハビリテーションの対象となる整形外科疾患の、病態、診断と治療について理解することである。整形外科学Ⅰの内容としては、整形外科の対象疾患と診断と治療法などの総論、各論として関節リウマチ、慢性関節疾患、循環障害、骨粗鬆症などの代謝性骨疾患、骨腫瘍、整形外科の神経疾患などの病態と診断・治療について学習する。また治療については保存的なものから手術を中心とした外科的療法まで多岐にわたることから、基本的な考え方やその特殊性を理解できるように学習する。	
職業専門科目	作業療法理論科目群	整形外科学Ⅱ	授業目標は、整形外科学Ⅰで修得した整形外科の基礎知識と考えたかをもとに、部位別疾患と外傷学について理解を深め、その病態理解に必要な解剖やバイオメカニクス、診断と治療について理解することである。内容としては、手と手関節、頸椎と胸椎・腰椎、股関節、膝関節、足関節など各部の機能解剖と病態、その診断と治療について学習する。また外傷や軟部組織損傷、骨折や脱臼などの病態と診断・治療について学習する。また治療については保存的なものから手術を中心とした外科的療法まで多岐にわたることから、基本的な考え方やその特殊性を理解できるように学習する。	
職業専門科目	作業療法理論科目群	精神医学	本授業は臨床に必要となる精神医学の基礎知識を理解することを目標とする。総論では、精神医学の歴史から治療と処遇の変遷、精神発達と医学心理学、精神症候学概論について解説する。各論では、気分障害や統合失調症、不安障害、認知症、ストレス関連障害などそれぞれの精神疾患の概念、疫学・病因・分類と症状・診断・経過と予後・治療について学習する。最後に精神疾患の重要な治療法である薬物療法の学習を通して、向精神薬の種類や作用機序について理解を深める。	
職業専門科目	作業療法理論科目群	小児科学	授業目標は、成長や発達過程にある小児の特徴を踏まえて、主にリハビリテーションの対象となる新生児、小児疾患について理解することである。内容としては、新生児と未熟児の理解、遺伝子疾患や先天異常、内分泌疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、中枢神経疾患、てんかんなどの原因や病態。また発達遅滞を伴う疾患として脳性麻痺や知的能力障害、注意欠陥多動性障害や自閉症スペクトラム障害などの発達障害、脊髄小脳変性症などの脊髄性疾患、筋ジストロフィーなどの筋系疾患、先天性股関節症などの骨・関節疾患などの原因、病態、症状、予後について学習する。	
職業専門科目	作業療法理論科目群	老年医学	授業目標は、老化の機序、老年者に多い疾患とその特殊性、老年者に見られる生活機能障害について理解し、疾患の治療だけでなく全人的包括医療の視点に立つてQOLの向上にむけた医療やケアの基礎知識を修得することである。内容としては、細胞老化や機能老化・寿命因子など老化のメカニズム、基礎的身体機能や認知機能など老年者評価、摂食障害・排尿障害・歩行障害や精神障害などの老年症候群、循環器系疾患・呼吸器系疾患・内分泌分泌系疾患・神経疾患など高齢者に見られる疾患の症状や治療と支援について学習する。	
職業専門科目	作業療法理論科目群	薬理学概論	薬理学は、医療の現場で益々重要性が増している薬物療法における薬剤の作用メカニズム、薬理作用及び動態について生化学や生理学などの知見に基づいて理解しようとする学問領域である。本講義では、医学・医療における基礎科学の重要な分野の一つとして、医療従事者に必須な薬理学的知識及び創薬について修得し、薬物療法に関する科学的な基盤作りを目標とする。更に、高血圧、糖尿病、精神病など、リハビリテーションの対象となる疾患のための薬物については、訓練との関係から禁忌事項などについても学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	作業療法力論科目群	予防医学	現在の日本では、ライフスタイルの変化、高齢化、ストレス過剰、環境汚染などを背景として生活習慣病や心の病が増加している。予防医学は、健康維持・増進や疾病の発症・再発の予防に向けて、その考え方や知識、方法や施策について理解を深めることを授業目標とする。内容としては、健康増進と予防医学の概念、健康問題と施策、高齢化社会と介護予防、生活習慣と予防、運動と予防、ストレスとメンタルヘルスなどについて学習する。 (オムニバス方式／全8回) ① 山川 正信／6回) 予防医学の概念と、健康維持・増進や疾病の発症・再発の予防に向けて、その考え方や知識、方法や施策について学習する。 ⑩ 分木 ひとみ／1回) 生活習慣病予防について学習する。 ⑪ 鈴木 美香／1回) 介護予防について学習する。	オムニバス方式
職業専門科目	作業療法力論科目群	画像診断学	授業目標は、基本的な医学的情報（特に画像）の知識の獲得とする。授業は、カルテ情報の読み方、血液・生化学データの基礎知識、レントゲンの基礎知識、MRI、CTの画像の読み方の基礎を経験し学習する。さらに、各種画像検査の原理、検査方法について理解を深める。また、代表的な疾患の特徴や病態、重症度と関連付け、正常画像解剖学とあわせて学ぶ。実践の場でどのような情報交換をしていくかを、さらに具体例を通して講義する。	
職業専門科目	作業療法力論科目群	栄養学	栄養は、健康の保持・増進に密接に関わり、その過不足やバランスの偏りは疾病を引き起こす要因となる。高齢者や疾病者および障害者においても、治療やリハビリテーションの効果を最大限に発揮するためには個々人の状態に合わせた栄養療法が不可欠である。栄養学では、医療従事者として医療現場での栄養療法を理解するために必要な栄養学の基礎知識を修得することを授業目標とする。内容としては、栄養状態の評価と判定、糖質・脂質・タンパク質の三大栄養素と代謝、栄養素の消化と吸収、栄養素の体内代謝、栄養ケア・マネジメント、ライフサイクルと栄養、健康づくりと食品・食事・食生活などについて学習する。	
職業専門科目	作業療法力論科目群	社会福祉学	社会福祉は私たちが安心して生活し、自分たちの可能性を伸ばせるように、社会的施策として整備されてきた。本講義では、社会福祉の歴史、理念、仕組みを学び、リハビリテーション職に必要な、社会福祉の考え方を身に付けていく。また主に高齢者、障がい者に関する現代社会の問題点を提示し、将来、臨床で活かすべき基礎的な知識や考え方も学ぶ。前半は講義中心で、後半はテーマに沿ったグループワークを行い、自分たちで文献を調べ、パワーポイントでスライドを作成しプレゼンテーションをする。講義全体を通して小論文や課題レポートを提出し、自らの考えを深め、表現する場にもする。	
職業専門科目	作業療法力論科目群	地域包括ケア論	現在、日本は人口の減少と小児高齢化が進むなかで、住み慣れた地域で医療や福祉サービスが提供される地域包括ケアシステムの構築が課題となっている。地域包括ケア論は、その地域包括ケアシステムの制度と個々人の健康と幸福の満足度に焦点をあて、地域の現状と課題の理解、実践のあり方を理解することを授業目標とする。内容としては、現在の日本や地域社会の現状、地域包括ケアシステムの概念と制度、地域包括ケアシステムを支える専門職と地域住民の役割、地域包括支援センターの機能と役割、各地の地域包括ケアシステムの現状と課題を講義する。また、高齢者が楽しんで地域の中で生活をしていくこと、その支援のあり方を紹介し、今後の地域での作業療法士の役割を検討する。	
職業専門科目	作業療法力論科目群	リハビリテーション概論	授業目標として、リハビリテーション概念と流れの理解、障害モデルの理解、関係職種との役割の理解とする。授業内容はリハビリテーションの概念を基に健康と障害について教示し、特にICIDHやICFといった障害モデルについての理解を深める。また医療チームとしての関連職種について知ることでリハビリテーションの全体像を把握していく内容とする。小グループで「障害」や「社会復帰」といったテーマの話し合いの機会を設け、自身の今までの体験からの理解と作業療法士として必要になるリハビリテーションの概念との相違点、繋がりを持つるようにしていく。	講義20時間 演習10時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	職業実践科目群	作業療法学総論	作業療法は医療、保健、福祉、教育、職業などの領域で行われる、作業に焦点を当てた治療、指導、援助である。本講義では、作業療法の歴史的経過や機能と役割を学び、作業療法の捉えている意味ある作業とは何か、作業療法の実施過程、各領域の作業療法、人の健康の捉え方（ICF）、社会状況や法・制度、多職種連携について講義やグループワークにて学習する。作業療法の概略を学習し、今後の専門科目への関心を高め、その関連性を把握する。	
職業専門科目	職業実践科目群	基礎作業学	日本作業療法士協会の作業療法の定義に「人は作業を通して健康や幸福になる」と述べられている。本講義では、作業療法士の捉える作業について学び、作業の必要性や、作業活動における基礎的な構成要素を理解できることを目標とする。また、人が作業を行うことによる、環境からの影響、身体機能や精神機能からの影響や関係性について理解を深めていくことを授業内容とする。各領域の作業療法介入、作業を中心にした介入例を用いて、作業療法介入のイメージを養う。	
職業専門科目	職業実践科目群	基礎作業学実習Ⅰ	生活を構成する作業の視点を知り、実際に作業活動を実施する。それらを通して作業療法士の扱う「作業」の意味について考え、作業療法の手段としての「作業」の学びを促進する。また、対象者が行う作業の意味や特徴を理解・分析し、個人因子・環境因子との関連性や、身体機能面、精神機能面、認知機能面などを講義形式やグループディスカッションにて理解・表出を行う。授業目標は①日常生活は意味ある作業の連続であることを理解する、②その人らしい作業が行えることの意味について自分なりの考え方を説明できるようになる事である。	実習18時間 講義12時間
職業専門科目	職業実践科目群	基礎作業学実習Ⅱ	手工芸を中心とした作業を行うことで、生活の中での作業のもつ意味を理解し、様々な作業活動の工程、特徴、工夫点など作業療法の視点で作業活動を知ることができるようになる事、様々な作業活動を通して、作業活動の分析の基礎を身につけ、作業活動の活用の視点を知ること为目标とする。作業活動の工程、特徴、工夫点、教授方法などの講義するとともに、様々な作業活動を実際に経験し、レポートにて考察をすることで理解を深める。 到達目標は①「作業」意味を理解し、様々な作業活動の工程、特徴、工夫点など作業療法の視点で作業活動を知ることができるようになる②様々な作業活動を通して、作業療法での活用の視点の一部を知るとする。	実習28時間 講義2時間
職業専門科目	職業実践科目群	作業療法研究法	作業療法士は専門職であり、臨床実践の質を高め、社会に貢献していく事が重要となる。そのために、作業療法研究が出来る為の研究手法（質的、量的研究）の基本的な手続きを学ぶことを目標とする。特に臨床研究で必ず取り組む事例報告書の作成の手続きを講義で学び、実際に臨床実習で経験した事例についてまとめる演習を行う。形式は、日本作業療法士協会の事例登録制度のフォームを用いる。最終的に事例発表会を行い、学生間のディスカッションを促しながら講義を進めていく。	
職業専門科目	職業実践科目群	作業療法管理・制度論	対象者に作業療法を効率的に提供していくためには、組織の管理や運営といった基盤が必要といえる。講義を通して、作業療法の提供基盤となる関連法規や制度やリハビリテーション部門及び、作業療法部門の組織体系や部門運営のための組織の在り方について学び、医療・福祉・介護領域（病院・施設等）での役割について理解する。また、日本作業療法士協会の白書やガイドラインを用いて、データを通して作業療法士の働く領域や、対象疾患などデータの理解を行い、職場環境や臨床像がイメージできるように講義を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	職業実践科目群	作業療法と倫理	作業療法は急性期の病院医療から地域での生活、子どもから高齢者、身体障害から精神障害まで非常に幅が広く、対象者は個人の状況、取り囲む人的・物的環境と様々である。その様々な状況を考慮しながら作業療法士は判断し行動をとらなければならない。倫理の原則を理解しそれに基づいて作業療法士として判断し行動できるようになるために、医療や作業療法の倫理について倫理の原則から理解し、対象者の権利擁護、情報管理、人の尊厳や生と死などから学ぶ。授業目標は①倫理の原則について理解することができる、②倫理の原則に基づいた判断ができる、③倫理の原則に基づいた行動がとれることとする。	
職業専門科目	職業実践科目群	作業療法評価学総論	作業療法の治療を実施するためには、作業療法評価が重要であることを学び、疾患の分野を超え、作業療法における評価の流れや評価の重要性について理解を深める。また、作業療法評価を治療計画に関連付けるだけでなく、作業療法実施の効果判定やリスク管理としての使い方なども理解することを目標とする。講義内容としては、作業療法評価の目的と意義、評価の過程、評価各分野で必要となる面接・観察、形態測定、意識の評価、バイタルサインの測定の基本的知識を学習する。	講義24時間 演習 6 時間
職業専門科目	職業実践科目群	身体障害作業療法評価学実習Ⅰ	身体障害領域における検査測定の基礎知識と方法の理解、各検査測定の目的や意義を説明できるように学習をすすめ、作業療法評価の一部で関節可動域測定、反射検査、平衡機能検査、感覚検査を中心として基礎知識を深めていく。特に、これらの基本評価は実施手順を座学で把握させ、実技を通して基本的な技法を学んでいく。また知識の確認として小テストや学生同士の確認作業を通して確実に知識が身についていることを確認しながら進めていくこととする。	実習20時間 講義10時間
職業専門科目	職業実践科目群	身体障害作業療法評価学実習Ⅱ	身体障害領域における検査・測定として、徒手筋力テスト(MMT)と簡易上肢機能テスト(STEF)について、その目的や意義を理解し対象者に説明ができること、およびその技術を習得しまずは学生同士で正しく評価を行えることを目標として講義・演習をすすめる。形式としてはグループ単位、またはペアでの実践形式が主となり、能力評価は実技試験と定期試験を併用して行う。筋力検査は上肢・下肢・体幹の順に行い、上肢機能検査については検査項目ごとに学習を進める。	実習20時間 講義10時間
職業専門科目	職業実践科目群	精神障害作業療法評価学実習	目標は、精神科作業療法の基本的な評価の流れ、対象者との関わりの基本姿勢を理解することである。精神科作業療法では観察評価が多くなる為、教員による作業面接の具体例(映像)とその解説、同じように「箱づくり法」を用いた作業療法評価の演習を行う事で作業療法士の評価の視点を伝える。他にも一般職業適性検査、質問紙法などを教材として用いる。評定は、実際に学生同士で講義で理解した評価技法を用いて検査測定を行い、それをまとめた成果物(レポート)をもって評価する。	実習20時間 講義10時間
職業専門科目	職業実践科目群	発達障害作業療法評価学実習	発達障害児(者)に対する作業療法の理念や役割と評価に必要な典型的発達の理解、発達障害領域の作業療法評価の基本的な視点を学び理解を深める。内容としては、発達障害の概念と対象疾患、作業療法の目的と役割、粗大運動・微細運動の発達、認知機能とコミュニケーションの発達、発達障害領域の作業療法評価、情報収集や面接と観察、姿勢・動作・行為の観察視点と分析などについて講義と演習を組み合わせ学習する。学生の子供のイメージを養う為に視覚教材を用いる。	実習20時間 講義10時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	職業実践科目群	身体障害作業療法基礎技術論	身体障害作業療法分野における作業療法に至るまでを理解するために、身体障害評価学で学んだことから治療的介入への展開を図る科目である。作業療法に関連する基本的介入技術を説明できる事を目標としている。講義形式はパワーポイントでの講義形式に加えて、一部演習室での技術の習得と症例を提示し評価・治療プログラムを検討する内容となっている。全体の流れとして、治療原理やリーズニングを学び、可動域訓練や筋力訓練・知覚訓練などの基礎的な学習から運動学習についてなど、身体分野における基礎を学習する。	
職業専門科目	職業実践科目群	運動器疾患作業療法学実習	作業療法士が対象とする身体障害の原因となる疾患は多岐に渡る。この授業では、作業療法の対象疾患の中でも運動器疾患に焦点を当てて、障害像、ハンドセラピィなどの作業療法アプローチを理解し、説明・実施できることが授業目標となる。特に日本作業療法士協会が作業療法士の専門性の一つとして確立している手外科領域についてその内容を深めて、症例紹介を行いながら臨床像をイメージ出来るようにする。講義の内容は、骨折や末梢神経損傷、腱損傷、熱傷やリウマチの疾患概要と評価、治療の進め方などを説明する。	実習20時間 講義10時間
職業専門科目	職業実践科目群	中枢神経疾患作業療法学実習	作業療法士が対象とする身体障害の原因となる疾患は多岐に渡る。この授業では、作業療法の対象疾患の中でも中枢神経疾患に焦点を当てて、脳血管障害と脊髄損傷による生活障害を呈した人への作業療法を説明できることと、上記の疾患を理解し、評価と治療の構造を説明できることを目標とする。授業では各種疾患の理解を復習し、その病態像に応じた評価方法論を教示するとともに、どういった思考によって治療が選択されるのかを知ることを中心として展開する。また治療方法論では臨床で用いられやすい方法論、また最新知見に基づいた方法論を説明していく。	実習20時間 講義10時間
職業専門科目	職業実践科目群	高次脳機能障害作業療法学実習	授業目標は、中枢神経疾患作業療法学や神経内科学と関連させながら、高次脳機能障害におけるメカニズムの理解、そして基礎的な評価方法と治療について説明できることとする。内容として、注意障害、遂行機能障害、失行症、失認症、半側空間無視、失語症を中心として症状発現に関するメカニズムと評価治療について授業を進めていく。特に臨床場面で見学体験することができない状態での授業が予想されるために動画媒体を用いながら実施する。また、動画観察後のディスカッションならびに評価のデモンストレーションのため週に2コマの編成で実施していくこととする。	実習16時間 講義14時間
職業専門科目	職業実践科目群	精神障害作業療法学	目標は、精神科の作業療法を行う上での基礎概念を理解することである。具体的には、精神科領域の治療は対象者との人間関係の構築が必要不可欠である。その意味を理解する為には、作業療法の文献だけでなく、教育学、心理学、社会学、看護学、当事者の手記などの資料を用いて作業療法を批判的に捉え直す必要がある。また、精神疾患がどのように人々に認識されていったか、その歴史的変遷を講義を通して学ぶ。学生の理解度は、精神科における支援を具体的に文章化（論述）させることで確認する。	
職業専門科目	職業実践科目群	精神障害作業療法学実習	目標は、精神科領域で関わる人が多い統合失調症や気分障害、神経症性障害、人格障害、依存症、認知症などの各疾患ごとの作業療法の介入手法を理解することである。また、認知行動療法やSST、家族療法の技法の演習も取り入れ、理解することである。各疾患は事例を通して学び、各種技法は実技演習を取り入れ、理解を深める。その為、その疾患でよく使われる治療技法をセットにして授業を行う。具体的には、統合失調症の事例を学んだ週にSSTを学ぶという形で週に2回の頻度で授業を展開する。学生の理解度は、医学的診断とリハビリテーションの流れに基づいた基本的な事例の理解、各種手技についても基本的な技法（概要とその理論背景）の理解とする。	実習20時間 講義10時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	職業実践科目群	発達障害作業療法学実習Ⅰ	発達障害作業療法は、障害の特性を把握するために、生活環境、成育歴などのライフステージが大きく影響する。そのため、脳性麻痺を中心に障害特性、発達特性、家族支援や作業療法過程とその評価と治療・支援などを理解することを目標に授業を行う。内容としては、脳性麻痺の概要と類型別特徴、痙直型四肢麻痺・痙直型両麻痺・痙直型片麻痺・アテトーゼ型の特徴と評価と治療支援、重症心身障害児（者）の概要とその評価と治療支援などについて学習する。	実習20時間 講義10時間
職業専門科目	職業実践科目群	発達障害作業療法学実習Ⅱ	発達障害領域の知的障害や自閉症スペクトラムなどの障害特性、発達特性を理解し、発達障害領域特有の作業療法評価と治療・支援について理解・説明できるように学習を進める。講義内容としては、知的障害・自閉症スペクトラム・注意欠陥多動性障害・学習障害などの特徴を学習し、生活行為との関連について理解を深める。またライフステージに合わせた子供の能力や生活行為の評価とその治療支援について講義とVTR、遊びの体験とディスカッションなどを組み合わせ実施していく。	実習16時間 講義14時間
職業専門科目	職業実践科目群	老年期障害作業療法学	目標は、①老年期にある対象者に対する作業療法の理念と役割を説明することができる。②作業療法プロセスを理解することができる。③老年期障害における作業療法の介入方法方法を理解することができる。④認知症に対する作業療法治療計画の立案ができる。である。老年期障害にある対象者の作業療法の理念と目的、作業療法士の役割及び形態、作業療法プロセス（評価・統合と解釈・目標設定・目的とアプローチ・実施方法）、作業療法治療理論、作業療法のプロセス、家族や多職種との連携についての説明を行う。また、認知症についての基礎知識、作業療法評価、治療について、講義と事例検討にて行っていく。	
職業専門科目	職業実践科目群	老年期障害作業療法学実習	目標は、①老年期の複雑性や高齢者に対しての作業療法の評価、支援について理解する。②高齢者の全体像（生活歴、家族状況、地域との関わり方、他職種）を把握し、支援計画を立案することができる。③高齢者に合併しやすい疾患について作業療法評価と支援について理解することができる。虚弱高齢者、寝たきり閉じこもり、廃用症候群に対しての作業療法評価、治療、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、大腿骨頸部骨折、腰椎圧迫骨折、腰痛、心疾患、呼吸器疾患、がんに対しての作業療法評価、治療について、講義や事例検討、グループワークを交えながら行っていく。	実習16時間 講義14時間
職業専門科目	職業実践科目群	日常生活活動論実習	日常生活活動の構成要素を理解できること、日常生活活動に関わる作業療法評価と治療的介入について説明ができるようになる事を目標とする。構成要素の理解では食事・排泄・入浴・整容・更衣について物理的特徴や文化的特徴、動作的特徴などに分類し学生自らの生活を土台として演習を進め分析させていく。その分析内容は発表会をもって全体へと理解を深めていく。また作業療法評価ではバーセルインデックスやFunctional Independence Measureを中心として臨床で頻回に用いられる評価方法を学んでいく。	実習16時間 講義14時間
職業専門科目	職業実践科目群	社会生活行為論実習	授業目標は、日常生活関連活動について理解できること、またその評価方法と支援方法を理解できることとする。内容は、自身の社会生活についての実践を通して検討・分析し、他者へと発表することで日常生活関連活動について理解を深める。また評価方法ではQuality of Lifeや健康度に関わる評価も行っていく。障害を抱えながらも生活を過ごす対象者を想定し、活動を物的に補うための自助具の作成も行い、実際にプレゼンテーション実施していく。	実習16時間 講義14時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	職業実践科目群	作業分析活用論	作業療法において「作業」は治療手段の1つである。「作業」のもつ治療的な意味と対象者の個人的な意味を統合して、治療効果が上がるように工夫して適応する必要がある。まず、いくつかの作業を実施し、作業療法独自の作業分析を行い、その作業がどのような特性をもっているかを捉え、その特性がどのような治療的意味を持ちうるかを明らかにする。さらに、治療的活用として、事例の治療目標と作業を適用させ、治療効果が期待できるかをグループワークで検討していく。作業分析の視点を知り、治療へ活用していくうえでの注意点を学ぶことを本講義の目標とする。	
職業専門科目	職業実践科目群	作業分析活用論実習	作業療法士が治療をしていく上で必要不可欠な「作業」に焦点を置いた分析を学ぶことを目標とする。具体的には、精神科領域で用いられることが多い「作業分析チェックシート」の理解と記入ができることである。学生自身が生き生きできる作業活動の一つ以上選択し、その分析をシートに沿って記入していく。授業の後半に報告する時間を設け、用いたシートの項目が必要となる理由、作業療法士が「作業」を用いることの意味づけを学生自身の言葉で表現できるかを到達目標の評価視点とする。	実習20時間 講義10時間
職業専門科目	職業実践科目群	家族援助論	対象者の作業療法介入には個人因子、環境因子が非常に重要である。対象者を取り巻く環境として家族の介助量は重要な要因の一つであるが、家族の介護負担についても専門職として配慮すべき点となっていく。講義では、家族援助の考え方を座学にて学習し、家族援助の意義を説明できる。家族援助に関する評価項目を挙げる事が出来ることを授業目標とし、グループワークにて、臨床実習で実際に経験した対象者をもとに家族支援に着目したケースカンファレンスを実施することで学生間のディスカッションを行いながら学習につなげていく。	
職業専門科目	職業実践科目群	住環境支援論	授業目標は、①住宅改修・福祉用具に関わる社会制度を知る。②住宅改修・福祉用具選定についての作業療法士の役割を理解する。③各福祉用具の特徴を理解する。④住宅改修の提案に必要な作業療法力視点を理解する。⑤障害に合わせた住宅改修・福祉用具の選定と活用までを検討することができる。 内容は、住宅改修や福祉用具提供についての制度、作業療法士の役割、各日常生活活動、境制御装置、家事動作、余暇活動等についての福祉用具の特徴や適応までの過程について講義する。そして、実際に福祉用具を使用し、特徴を理解する。障害に合わせたケース検討を行い、対象者や家族、介護者への福祉用具の選定から活用までを意識した授業を行う。演習を含むため、週に2回実施することもある。	
職業専門科目	職業実践科目群	作業療法義肢装具実習	義肢装具は対象者の身体障害を補完するために重要な知識である。作業療法士が義肢装具を提供する、もしくは提案する対象は運動器疾患、中枢神経疾患と目的によって多岐にわたる。講義では、義肢、装具について理解し、それらを必要とする疾患の理解、評価技法と治療的介入について理解する。作業療法士の専門性である手外科領域で使用頻度の高い装具作成演習を取り入れ対象者に合った装具を作成できること、様々なスプリント作成を見学し多種多様なスプリントについて理解するように演習を取り入れて講義・演習をすすめる。	実習16時間 講義14時間
職業専門科目	職業実践科目群	生活行為向上マネジメント論実習	「生活行為向上マネジメント」は、日本作業療法士協会が2008年から取り組んでいる事業である。この事業の背景は、対象者を作業を通して捉えることの意味を作業療法士自身が再認識することであり、作業を通して対象者を理解することを具体的な形で実施できることである。その為、授業の目標は、この事業の概念の理解、実施された経緯、これらを踏まえた上で対象者を作業を通して理解できることが目標となる。また、作業を通して対象者を理解する諸理論（人間作業モデルなど）も概観していく。	実習16時間 講義14時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	職業実践科目群	地域生活作業療法学総論	対象者の地域での生活を考えて作業療法を展開するためには、人の暮らしを広い視野で捉えることが大切となる。本講義では①何らかの障害があっても住み慣れた環境で、心の通いあった人々とともに自分らしく生活し続けることの意義や困難さを理解する②地域で生活するケースを通し、支援内容や作業療法士の役割を考えることを授業目標とする。授業内容は座学と地域での学外活動体験を通して、地域の理解と地域で暮らす方々の障害像を学び、地域作業療法の理念と目的を学習する。	講義22時間 演習8時間
職業専門科目	職業実践科目群	地域生活作業療法学実習Ⅰ	目標は、「地域に住まう利用者との関りを通して、障害を持つ方が地域の中でどのように生活し、我々作業療法士やその他の関連職種がどのような役割を果たすべきかを考える」とする。上記の目標に向かい、形態として講義形式・グループワーク・他施設が主催する風船バレーボール大会への参加という形をとり、通所サービスを利用する方やそこで働く作業療法士・多職種との関りを通して、目標の達成を目指す内容となる。またイベントの企画・運営についても経験する。	実習20時間 講義10時間
職業専門科目	職業実践科目群	地域生活作業療法学実習Ⅱ	目標は、実際に地域生活を行っている精神障害の方の生活を知り、理解することである。授業は、講義やビデオ教材を用いた講義と実際に地域生活をしている当事者の方に来校してもらい、インタビューを通した演習の2本柱で行う。講義で知ったことと実際の話との相違点、また地域での支援と病院施設での支援の相違点を明確化することがねらいである。学生が学んだことは当事者の方の前でプレゼンを行い、そこで具体的なフィードバックを貰い、理解を深める。授業では当事者参加となるため、週で2コマ以上の編成も含め実施していくこととする。	実習20時間 講義10時間
職業専門科目	職業実践科目群	地域生活作業療法学実習Ⅲ	目標は、①各通所系サービスや訪問リハビリテーションについての目的について理解し、説明することができる②行政が求める今後の作業療法士の活躍について理解する③通所リハ利用者との関りを通して、障害を持ちながら地域で暮らす方への支援方法について考えることとする。授業形態として、主に障害を持ちながら地域で暮らす方を学校に招き、対象者からの語りと一部面接や評価から、情報のまとめとどのようなアプローチが考えられるかを検討していく。そのため、授業進行は週に2コマ以上の編成も含めて実施していくこととする。	実習20時間 講義10時間
職業専門科目	職業実践科目群	作業療法見学実習Ⅰ	実習目標は、医療人としての接遇・態度を身につけること、作業療法士の仕事を知り、施設の役割、施設における作業療法士の役割を理解すること。そして作業療法の対象となる人や疾患像を明確にすることで、作業療法における施設特性を理解することとしていく。内容として、臨床指導者の指導の下で見学を中心として、実務状況を体感し、作業療法士の専門性について作業療法場面を通して説明を受ける。またその経験内容は日々のレポートとして蓄積していくように進める。	共同
職業専門科目	職業実践科目群	作業療法見学実習Ⅱ	実習目標は、医療人としての接遇・態度を身に着けること、そして作業療法の対象となる人や疾患像に対する作業療法士の関りを説明できること、作業療法が展開される施設特性や空間を理解できること、とする。内容としては臨床指導者の指導の下で見学と評価の一部を体験及び治療場面を見学し説明を受けることを通して、実務状況を体感・体験し一部考察を進めていくこととする。またその経験内容は日々のレポートとして蓄積していくように進める。	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	職業実践科目群	作業療法評価実習	実習目標は、医療人としての接遇・態度を身に着けること、そして作業療法の対象となる人や疾患像に対する作業療法士の関りを説明できること、作業療法が展開される施設特性や空間を理解できることとする。また、これまでに学習した知識を臨床場面に結びつけ、作業療法士の指導管理の下、作業療法評価の一部を実践し、プログラム立案までのプロセスを理解することを目指す。特に、作業療法評価後の目標設定や治療プログラムの立案にあたっては考察が困難な点であるために、臨床指導者の指導を基にして思考を進める。内容として、臨床指導者の指導の下で体験学習を中心として、作業療法対象者への評価の実施方法や考え方を学んでいくこととする。また形態として実習半ばには中間評価を設け、学生と指導者共に振り返りと以降の課題を共有できるようにする。	共同
	職業実践科目群	作業療法総合臨床実習Ⅰ	実習目標は、作業療法における評価・治療を含む一連のプロセスを踏まえた臨床思考過程と実践方法を学ぶこととする。内容として、臨床指導者の指導の下で、診療参加型の体験学習を中心として、作業療法対象者への評価介入の一連の実施方法や考え方を学んでいくこととする。また形態として実習半ばには中間評価を設け、学生と指導者共に振り返りと以降の課題を共有できるようにする。最終的な評価方法は実習指導者と学内実習の総合判定から行う。	共同
	職業実践科目群	作業療法総合臨床実習Ⅱ	実習目標は、作業療法における評価・治療を含む一連のプロセスを踏まえた臨床思考過程と実践方法を学ぶこととする。内容として、作業療法総合臨床実習Ⅰとは異なった分野・領域となる臨床指導者の指導の下で、診療参加型の体験学習を中心として、作業療法対象者への作業療法介入の一連の実施と経過のまとめ及び再評価を通して作業療法の効果判定の考え方を学んでいくこととする。また形態として実習半ばには中間評価を設け、学生と指導者共に振り返りと以降の課題を共有できるようにする。最終的な評価方法は実習指導者と学内実習の総合判定から行う。	共同
	職業実践科目群	作業療法地域実習	実習目標は、地域で作業療法を行っている施設での実習を通じて、障がい者が地域で生活することの意味や困難を知り、地域医療福祉の理念やその中での作業療法の役割を理解することである。内容は地域作業療法を実施している施設にて指導者の指導のもと実習を行う。また現場で学習した内容を学校にて整理し深める。本実習が作業療法の理念に近いことを学べる内容となる為、今までの病院での実習で学んだこととの相違点を知る機会となる。その為、今後、学生自身になりたいと思う作業療法士像を明確にし、それが実現できる環境は何かを理解できることを最終到達目標とする。	共同
	展開科目	マーケティング論	マーケティングに関する基礎的な知識を学ぶだけでなく、商品戦略から事業戦略へ、さらに企業戦略へと拡大しているマーケティング活動に関する実践的で役立つマネジメント・ノウハウを習得することを目指す。伝統的なマーケティングの概念に加え、ソーシャルネットワークを用いたマーケティング、コンテンツマーケティングなどのトピックについても取り上げる。この授業の目的として、マーケティングの理論と実務について理解する。ケーススタディを通じて企業経営に対して関心を持つ、生活者トレンドや新製品情報など市場の動向に敏感に反応する力を養うこととする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目	施設起業運営論	安定的な施設、企業の成長は、社員の仕事の幅を広げたり、働きがい高めたりすることはもちろん、取引先との良好な関係を通じた新しい価値の提供、さらに地域社会への貢献と幅広い成果をもたらす。しかし、世間一般に、施設、企業運営は簡単ではないとされる。なぜなら、人間関係を構築していくことが難しいからである。人間関係は、些細なことですぐに壊れてしまう。それでは、安定的な施設、企業の成長のためには日々、どんな事を考えて、実践し、良好な人間関係を構築していけばよいのだろうか。この授業では、施設や企業運営における基本原則について学び、良好な人間関係を構築し、安定的な施設、企業へと成長させるのに重要な条件を学ぶことを目標とする。本授業は、講義形式で進めるが、できるだけアクティブ・ラーニングになるように進める。	
展開科目	ボランティア論	Volunteerとは「自発的な人」を意味し、自発的な意思に基づいて社会活動を行う者を指す。ボランティア活動は、社会的連帯感に基づく公共活動、市民活動であり、医療の中で行う支援とは異なる側面がある。外来講師には具体的なボランティア活動の実例とそこでの連携の諸問題（ボランティアと医療職）を取り上げてもらう。その実例を基に今後、医療人となる学生にはボランティアとの協業の課題、自分はどのように関わることが出来るのか、その対策について考察することを目標とする。	
展開科目	子育て支援論	どのような子どもであっても（障害の有無に関係なく）子どもとの向き合い方には共通点がある。子育てに於いて子ども側からの視点で前向きに育むペアレンティングの支援方法を紹介する。特に期待値・褒めて育てる・予防的に教える・問題が生じた際の対応、落ち着く方法等具体的事例をもとに理解する 授業目標は、障害の有無に関係なく、子育てに対する基本的なペアレンティングの支援方法を理解する。具体的なほめ方、予防的な教え方、問題が生じた際の対応方法、感情の落ち着かせ方ができることを目指す。	
展開科目	災害支援論	災害時要援護者を中心とした被災者の生活支援を行う方法を学ぶ。救出・避難期における初期対応の技術や避難所の立ち上げから自立して生活を形作るまで段階に応じた支援について理解を深め、災害が生じた時のリハビリテーション職種としての支援について考えることを目標とする。内容は、災害と災害支援、地域における災害支援、災害時要援護者支援、救出・避難期の緊急対応、避難所の立ち上げ・運営の方法、避難所生活期の支援方法、仮設住宅生活期の支援などを講義と演習を通して理解を深める。	講義8時間 演習7時間
展開科目	教育支援論	社会の中で学校教育や学校教員の仕事や役割、また障害をもつ子どもに対して学校で取り組まれている教育支援や課題について理解を深め、リハビリテーション職種として学校教育支援を考えることを目的とする。 内容は、学校教育に関する制度・政策、教育の理念と思想、社会の中での学校教育の位置づけ、学校教員の仕事や役割、障害をもつ子どもへの教育支援の歴史、障害を持つ子どもへの通級学級・特別支援学級・特別支援学校での教育的取り組みと課題について学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目	メンタルヘルスマネジメント論	自らのストレスの状況や状態を適切に把握し、不調に早期に気づき、必要があれば他人に助けを求めることの重要性を理解する。また、管理監督者向けの内容も予定しており、部下への配慮の仕方、部下が不調に陥らないような安全配慮義務に則った対応を詳述する。 目標は、心の健康管理（メンタルヘルス・マネジメント）への取り組みの重要性を理解し、ストレスやその原因となる問題に対処する方法を理解する。また働く人のメンタルヘルス不調の未然防止に関する知識や対処方法を習得する。	
展開科目	障がい者スポーツ論	障がい者のスポーツ活動に関する、歴史的な背景や文化を含め、障がいの理解、障がい者の理解を深めるために、歴史・思想、社会的・制度的観点、指導方法についての知識を習得することを目標とする。全ての人間がスポーツという文化に親しみ、健康な心身を育んでいくためのスポーツと社会の在り方について理論を学ぶ。また、実際に障がい者の競技スポーツを紹介し、その道具やルールの工夫、配慮事項について講義を行う。そして、地域の障がい者スポーツ指導者として活動できる知識を得る。	
展開科目	障がい者スポーツ論実習	健康の維持増進に寄与する障がい者のスポーツ指導について専門的な知識と技能を身につけることを目的とする。障がい者スポーツは、誰でも参加できるように適応されたスポーツであることを学び、可能性を追求する場とする。そして、学生自らが障がい者と健常者が交流できるスポーツ大会を企画し、運営することで、より高度な想像力、実践力を育むことを目標とする。 (オムニバス方式／全15回) (19 安田 孝志／7回) 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を障がい者を交えて演習を行う。 (20 池谷 雅江／7回) 全国障害者スポーツ大会の実施競技、障害区分について解説。また、競技の指導法と規則について障がい者を交えて演習を行う。 (⑧ 大西 満／1回) 全国障害者スポーツ大会の理念を講義形式で解説。	オムニバス方式 実習20時間 講義10時間
展開科目	地域社会共生論	目標は、地域共生の基本的概念の理解を深める。授業は、各学生が住んでいる地域の人口動態、出生率、転居率、高齢者率、障害者手帳の受給率、生活状況、医療施設数、障害者の社会復帰施設数などの基本的情報などを調べ、データから地域課題を把握する。外来講師として、民生委員、こども食堂、家族会、スポーツ活動の推進者といった医療福祉領域外の人を招くことで、地域共生に向けた多視点的な視野を学ぶことにより、基本的概念の習得をはかる。	
展開科目	地域社会共生論実習	実際の地域社会共生を目指した事業への参加体験を通して、地域共生社会への理解を深めることが目標である。具体的には、実際の事業（障害者の社会参加を目指した行事など）に参加する前に、地域の障害者（児）の現状や地域での暮らしについて考え、地域をともに作り出す地域共生に向けたプランを小グループで作成し発表を行う。そして実際に事業に参加した後、提案した案の加筆修正を行い、より実現可能なプランへとブラッシュアップしていく。最終的に小グループで発表を行わせることで、他者と協業する技術も身につける。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展 開 科 目	精神障がい者就労環境論	目標は、心理精神に障害のある方への就労の基本的知識の理解である。内容は、障害者就労支援制度と障害者雇用施策、実際に滋賀の就労支援事業といった諸政策の概要、就労支援に係る組織・団体の役割と実際、就労支援に係る専門職の役割と実際、就労支援分野と企業業務の実際と求められる人材について講義を中心に学ぶ。就労支援が円滑に運ぶ為には当事者、企業、就労支援者をもつ信念の対立構造をいかに回避できるかにかかっている。この後の実習で具体的な事例を学ぶ前に就労支援に関する構造理解の為の基礎知識を学ぶ。	
展 開 科 目	身体障がい者就労環境論	人は一生を通じて、様々な段階で心身の機能に障害をきたす。治療等により機能を回復する場合もあれば、身心の機能障害が持続したり進行する場合もある。加齢も心身の機能低下の原因となる。2001年にWHOが採択した「国際生活機能分類（ICF:International Classification Functioning, Disability and Health）」では、身心の機能に障害があったとしても、環境の改善や社会制度の整備を通じて、活動の制限や社会参加に関する制約を最小化する概念を提示した。我が国でも、以後、「障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重しあいながら共生する社会の実現」が追求され、企業での障害者雇用が義務付けられたり、新たな法制度の制定により様々な社会場面での障害者差別の解消が図られている。本教科では、①身体障害を中心に障害特性を理解する。②成人障害者の二次障害の発生実態とその発生要因を理解する。③良好な成果が得られた障害者の就労環境改善事例から、障害者の就労環境の改善に至るアプローチを学び、模擬改善計画が作成できる。ことを目標とする。	
展 開 科 目	就労環境論実習	目標は、実際の就労支援現場の視察を通して、滋賀県の現在の就労支援にまつわる課題への理解を深めることである。滋賀県の心理精神の障害のある方の就労支援に作業療法士が関わっている事例が少ない為、その問題の背景を調査、分析することが当面の課題になる。就労支援事業所へのフィールドワークや障害者雇用に関心のある事業所での講義（例えば、精神障害者の生活障害について）やアンケート調査（例えば、障害者就労に関して障壁となること）を実施することで、滋賀県の心理精神の障害のある方の就労に関する現状を理解する。成果物は関連学会で発表をすることを目指す。	
展 開 科 目	老年期地域生活適応論	滋賀県またはその地域における人口減少と高齢化の現状から地域特性について理解を深め、地域の抱える課題を知り、その解決にむけた思考を議論を通じて学ぶことを目標とする。内容は、滋賀県やその地域特性、人口と高齢化の現状、地域でくらす高齢期の特徴と課題、認知症高齢者のケアの現状、安全で健康的な高齢者の社会生活、また地域で行われている高齢者支援等について学び、他府県の地域事例、グループワークにて地域課題と解決案、その有効性や実現可能性について議論し解決策をまとめて発表を行う。	
展 開 科 目	老年期地域生活適応論実習	人口減少と高齢化が進む滋賀県やその地域の抱える課題を知り、その解決にむけた思考を議論を通じて学ぶことを目標とする。学内の事前学習にて高齢者支援事業の役割や内容を学び、地域で生活する高齢者支援課題等を整理する。地域のフィールドワークでは、事業所等の社会資源を利用して暮らす高齢者の現状、または安全で健康的な高齢者の社会生活をささえる高齢者支援について学習する。学内にてフィールドワークで得た情報をグループワークにて現状のまとめを行い、議論を通して課題の発見と解決にむけて思考し発表を行う。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開 科目	成人期地域生活適応論	地域の施設で暮らす成人期から老年期を迎えた障害者の現状やその生活と困難さや、また支援者の抱える課題を理解することを目標とする。内容としては、地域で生活する成人期障害者の現状、理念、制度、地域障害者施設の歴史と現在、成人期を迎えた家族の想い、福祉支援職の役割、現状の生活と困難、支援者の抱える課題について講義とグループディスカッションを通して学習する。本授業で取り上げる対象者は施設生活の方なので、施設の中でのパターン化した生活を滞りなく行えることに学生の視点は向いてしまう。その為、対象者の生活を支援することは、その生活を組み立てる対象者にとっての意味ある行為を支援していくことを学び理解を深める。	
展開 科目	成人期地域生活適応論実習	地域の施設で暮らす成人期から老年期を迎えた障害者の現状やその生活と困難さ、また支援者の抱える課題とその解決にむけた思考を議論を通じて学ぶことを目標とする。地域の施設にてフィールドワークやアンケート調査を行い、施設で暮らす成人期の障害を持たれた方の生活状況や施設で働く支援職員の役割や施設での暮らしについて学習し、学内にて施設で得た情報の整理を行い、支援職員の抱える課題やその解決策について小グループに分かれて議論しその内容を発表する。	
展開 科目	児童地域生活適応論	近年、保育所など地域施設での発達障害がある子ども・「気になる子」の受け入れや「早期の気づきと対応」の充実が求められる。しかし、滋賀県では保育所などで子どもの発達支援や育児支援に携わる作業療法士が少ないのが現状である。今後、保育の現場で保育士や支援員と共同で子どもの発達支援にあたるように職種理解から作業療法士の専門性の活用について考える必要がある。本講義では、保育所や学童保育の制度な位置づけや役割を知り、保育士や支援員の専門性と支援内容や方法から職種の理解を深めることを目的とする。	
展開 科目	児童地域生活適応論実習	現場の保育所等事業所における役割や保育の流れを理解し、子どもの育ちとその子どもに応じた保育士等の児童支援職の援助や役割について理解を深める。また発達障害をもつ子どもや気になる子どもに対する事業所での支援の現状について学ぶ。フィールドワークやアンケート調査を通して事業所の現状や児童支援職の役割や専門性のまとめを行い、小グループに分かれて地域での児童の生活とその支援について、また児童支援の中で「作業」（多くは遊びとされている）はどのように意味をもって活用されているかを議論しその内容を発表する。	
総合 科目	協働連携論総合実習	リハビリテーションの分野で共通する症状、障害を有した地域在住の障害者に対して、職種間連携を通してリハビリテーションアプローチの実際について討議・学習する。地域で働く理学療法・作業療法などの専門職業務の理解をしながら、各専門職が考える地域在住の障害者に関する問題点・アプローチ方法を検討・発表し、リハビリテーションチームとしてのゴール設定とアプローチ方法の検討・発表を行う。内容は、実際に地域で生活されている障害者の講演を通して、各職種の専門性をもとに、地域共生社会の実現に向けた解決策を検討・提案する。	共同 同時に授業を行う 学生数：120人 教育上必要な理由は、3年間で学んだ多職種連携をシミュレーションするため両学科混合で行うことで、教育効果が期待できる。なお、授業には4名の教員が入り指導するため、教育上支障はない。

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合 科目	作業療法総合実習Ⅰ	これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合することを目的として、本科目では地域生活者が能力を発揮し健康的に暮らしていくために何が課題となるかを発見するために、作業療法評価を応用・活用する方法について学修する。これまでの展開科目や実習で得た情報、事例を基にグループワークを通じて、作業療法の評価視点である個人・集団、生活行為、施設の物理的・人的環境からの情報を整理して分析と構造化をおこない、各分野の生活の何が課題となるのかを導き出すための作業療法評価の思考を学修する。	共同
総合 科目	作業療法総合実習Ⅱ	本科目では、これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合し、地域生活障害者が抱える暮らしの中の課題に対し、作業療法士としてどのようにそれを応用し活用できるかについて学習する授業である。脳性麻痺、脊髄損傷、片麻痺等の障害を有した実際の地域生活障害者をゲストスピーカーとし、実際の体験談（事例）から、地域障害者の課題をグループごとに発見し、分析することで応用力を育成する。	共同

学校法人藍野大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和元年度
入学 編入学 収容
定員 定員 定員

藍野大学			
医療保健学部	3 年次		
看護学科	90	2	364
理学療法学科	80		320
作業療法学科	40		160
臨床工学科	40		160
計	250	2	1004
藍野大学大学院			
看護学研究科			
看護学専攻	6		12
計	6		12
藍野大学短期大学部			
第一看護学科(2 年制)	100		200
専攻科 地域看護学専攻(1 年制)	40		40
第二看護学科(3 年制)	80		240
計	220		480
滋賀医療技術専門学校			
理学療法学科	80		160
作業療法学科	40		80
計	120		240

→

令和2年度
入学 編入学 収容
定員 定員 定員 変更の事由

びわこリハビリテーション専門職大学				大学新設
リハビリテーション学部				
理学療法学科	80		320	
作業療法学科	40		160	
	120		480	
藍野大学				
医療保健学部	3 年次			
看護学科	115	2	464	定員変更(25)
理学療法学科	100		400	定員変更(20)
作業療法学科	40		160	
臨床工学科	40		160	
計	215	2	1184	
※平成31 年3 月収容定員変更認可申請				
藍野大学大学院				
看護学研究科				
看護学専攻	6		12	
計	6		12	
藍野大学短期大学部				
第一看護学科(2 年制)	100		200	
専攻科 地域看護学専攻(1 年制)	40		40	
第二看護学科(3 年制)	80		240	
計	220		480	
滋賀医療技術専門学校				※平成33 年3 月閉校予定
理学療法学科	80		80	
作業療法学科	40		40	
計	120		120	